

令和6年度 町民等意識調査の結果について 【概要報告】

第6次武豊町総合計画の進捗管理を行うとともに、今後の施策・事業を検討する上での基礎資料とするために、次の5種類の調査を実施しました。

- ① 町民意識調査
- ② 中学生意識調査
- ③ 若者・子育て世代アンケート調査
- ④ 企業・事業所アンケート調査
- ⑤ 来訪者Webアンケート調査

本資料は、意識調査[アンケート]の結果の要点を取りまとめたものです。

○町民等意識調査報告

- 1 ①町民意識調査・②中学生意識調査・③若者・子育て世代アンケート調査について
- 2 物価高騰、SDGs、ゼロカーボンシティ宣言関係アンケート調査について
(①町民意識調査・④企業・事業所アンケート調査内で実施)
- 3 ④企業・事業所アンケート調査について
(従業員の子育て支援については、③若者・子育て世代アンケート調査の結果も含む)
- 4 ⑤来訪者Webアンケート調査について

調査の概要

それぞれの調査の対象、方法、期間、回収状況は以下の通りです。

① 町民意識調査	
調査対象	・武豊町在住の 15 歳以上の町民から無作為抽出した 3,000 人
調査方法	・郵送による配布・回収、または郵送による配布・Web による回答回収
調査期間	・令和6年7月 29 日に郵送にて配布し、8月 19 日を返信期限として回収
回収状況	・配布数 3,000 票 有効回収数 1,605 票 有効回収率 53.5% ・回答方法 紙:Web=72.2%:27.8%

② 中学生意識調査	
調査対象	・武豊町の中学校に在学する中学生(中学1・2年生 797名)
調査方法	・学校を通じ依頼、Web による回答回収(一部郵送による回収)
調査期間	・令和6年7月1日に中学校に依頼、7月31日までに回収
回収状況	・配布数 797票 有効回収数 766 票 有効回収率 96.1%

③ 若者・子育て世代アンケート調査	
調査対象	・町内の 18 歳以上 40 歳未満の町民から無作為抽出した 1,000 人
調査方法	・郵送による配布・回収、または郵送による配布・Web による回答回収
調査期間	・令和6年7月 29 日に郵送にて配布し、8月 19 日を返信期限として回収
回収状況	・配布数 1,000 票 有効回収数 409 票 有効回収率 40.9% ・回答方法 紙:Web=41.5%:58.5%

④ 企業・事業所アンケート調査	
調査対象	・武豊町内に立地する企業・事業所から無作為に抽出した 500 事業所
調査方法	・郵送による配布・回収、または郵送による配布・Web による回答回収
調査期間	・令和6年7月 29 日に郵送にて配布し、8月 19 日を返信期限として回収
回収状況	・配布数 500 票 有効回収数 231 票 有効回収率 46.2% ・回答方法 紙:Web=72.5%:27.5%

⑤ 来訪者 Web アンケート調査	
調査対象	・dポイントクラブ会員を対象とし、その中で半年の間に武豊町に来訪履歴のある愛知県在住者(武豊町民除く)
調査方法	・Web上でのアンケート
調査期間	・令和6年7月 31 日より調査開始し、9月8日に終了 (調査を開始し、目標回収数(1,000)が達成した時点で終了)
回収状況	・回収数 1,000 票

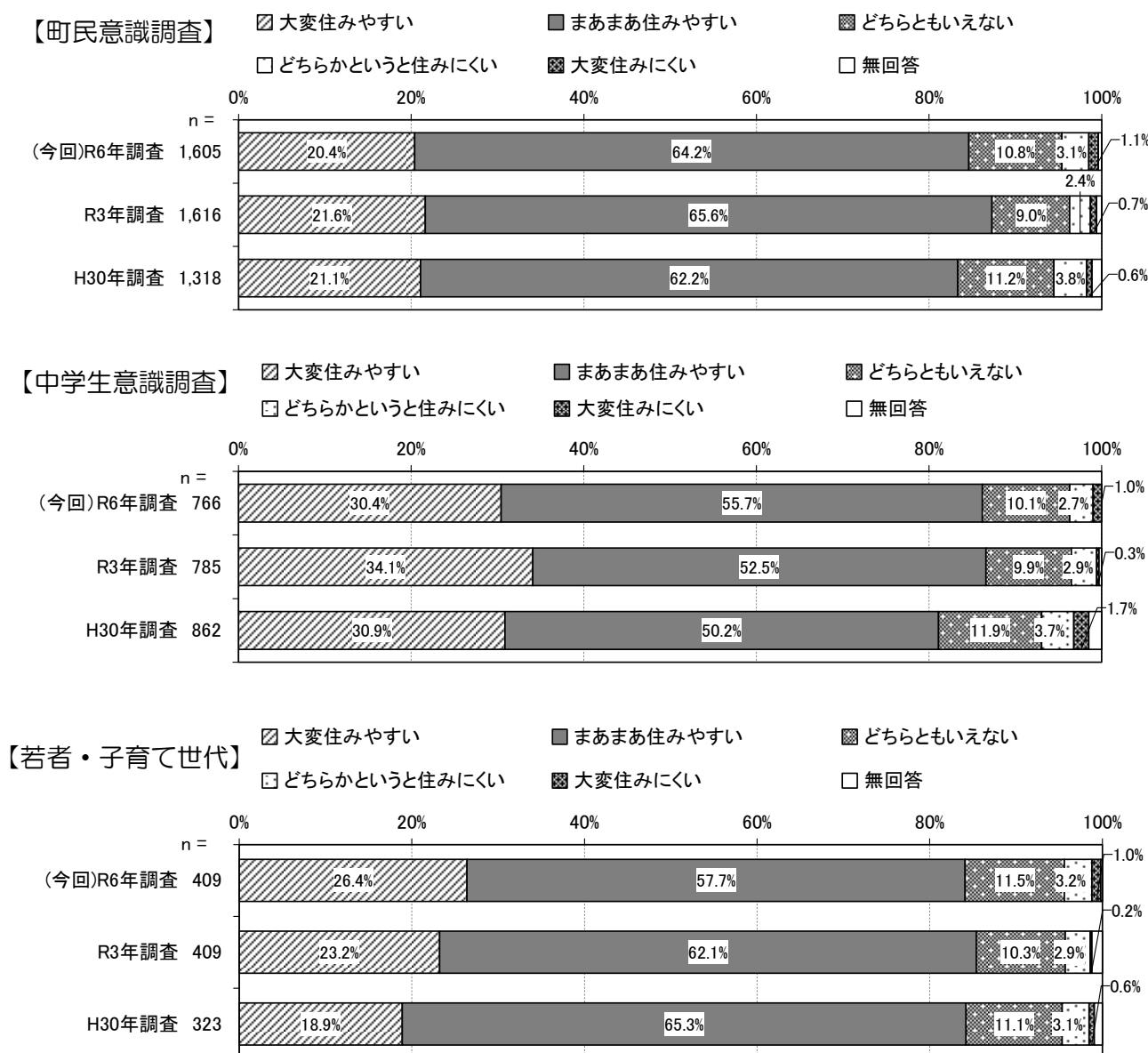
調査の結果

1 ①町民意識調査・②中学生意識調査・③若者・子育て世代アンケート調査について

(1)武豊町の暮らしやすさ

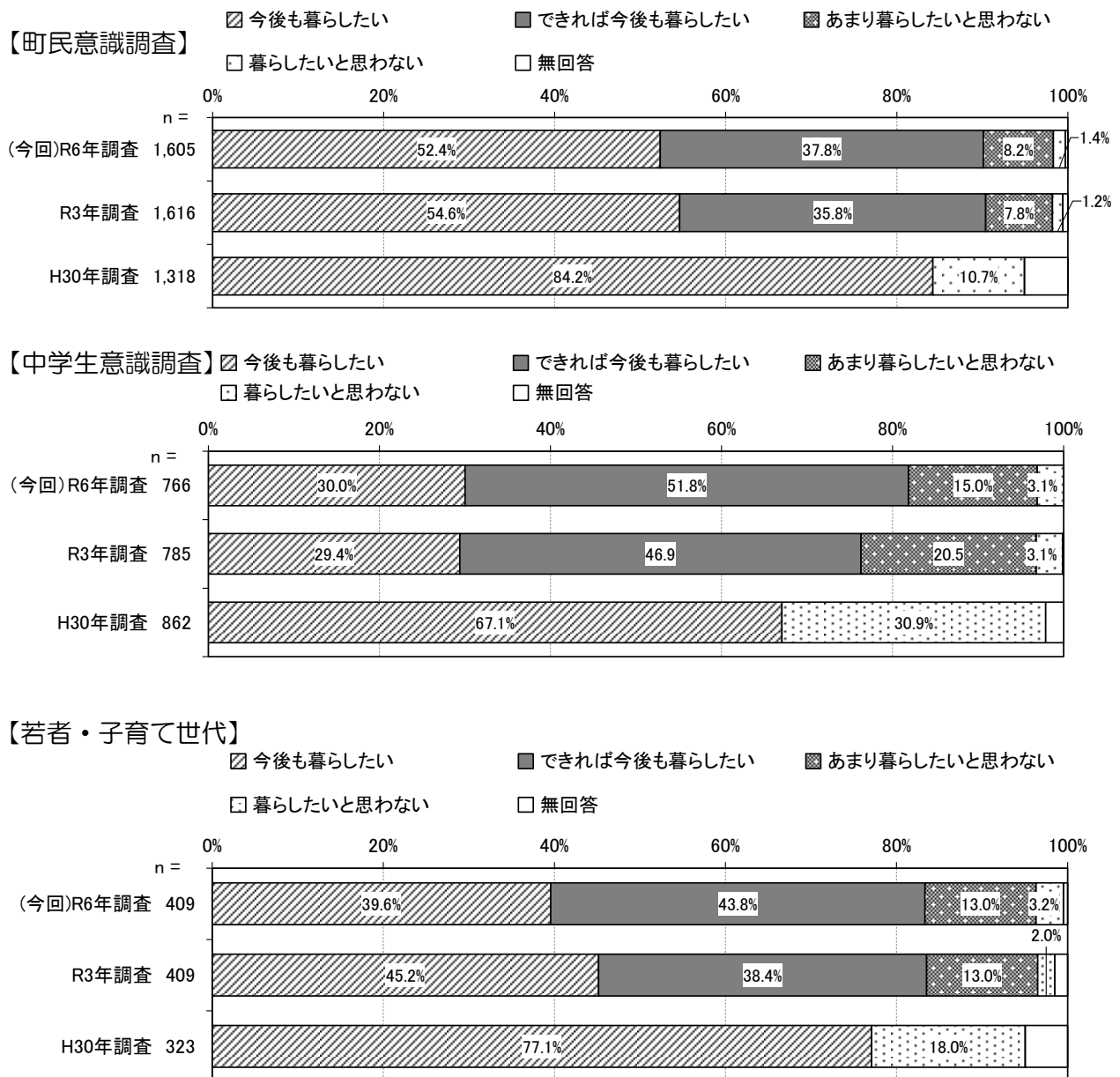
- ・「図表-1 住みごこち」では、町民意識調査、中学生意識調査、若者・子育て世代アンケート調査のいずれの調査でも、8割以上の回答者が『住みやすい(「大変住みやすい」+「まあまあ住みやすい」)」と評価しています。いずれの調査でも、令和3年調査と比べると『住みやすい』は下降していますが、平成30年調査と比べると、町民、中学生では高まっています。

図表-1 住みごこち(過去調査との比較)



- ・「図表-2 今後の居住意向」では、『今後も暮らしたい(「今後も暮らしたい」+「できれば今後も暮らしたい」)』の割合は、町民意識調査では 90.2%と9割を超える非常に高い割合を示しています。中学生意識調査では 81.8%、若者・子育て世代アンケート調査では 83.4%です。
- ・令和3年調査と比べると、町民も若者・子育て世代も同程度ですが、中学生では『今後も暮らしたい』が 5.5 ポイント上昇しています。

図表-2 今後の居住意向(過去調査との比較)



※いずれの調査も、平成 30 年調査までは、「今後も暮らしたい」と「暮らしたいと思わない」の2つの選択肢で回答を求めている。

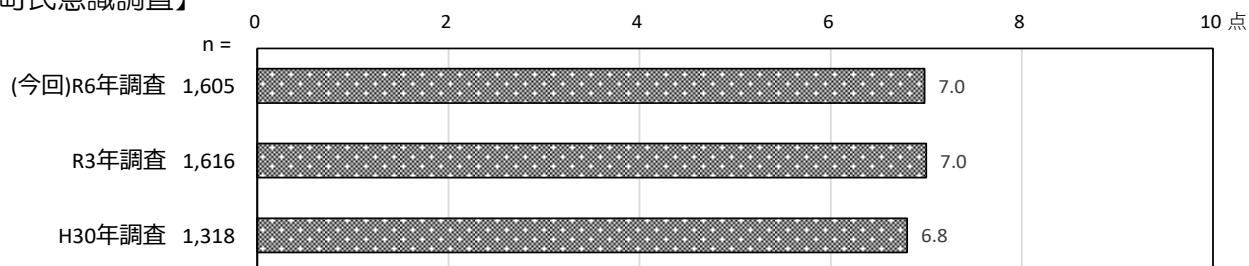
(2)幸福度

- ・「図表-3 現在の幸福度」では、幸福度の平均点※をみると、町民意識調査では7.0点、中学生意識調査では7.1点となっています。経年的にみると6～7点付近を推移していますが、今回の調査結果はいずれも令和3年調査と同じ傾向となっています。
- ・「図表-4 5年前と比べた幸福感の変化」では、「より幸せになった」が平成30年調査から順に、19.1%、21.7%、23.9%と増加していますが、「より不幸になった」も7.4%、7.5%、10.0%と増加しています。なお、「より幸せになった」と「変わらない」の合計は89.1%で、約9割の方が幸福感を維持しています。

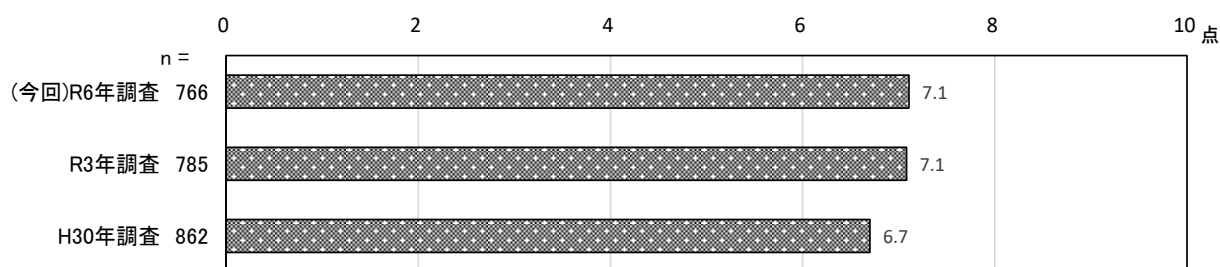
※幸福度の平均点：回答者が幸福度について10段階評価した点数を平均したものです。

図表-3 現在の幸福度(過去調査との比較)

【町民意識調査】

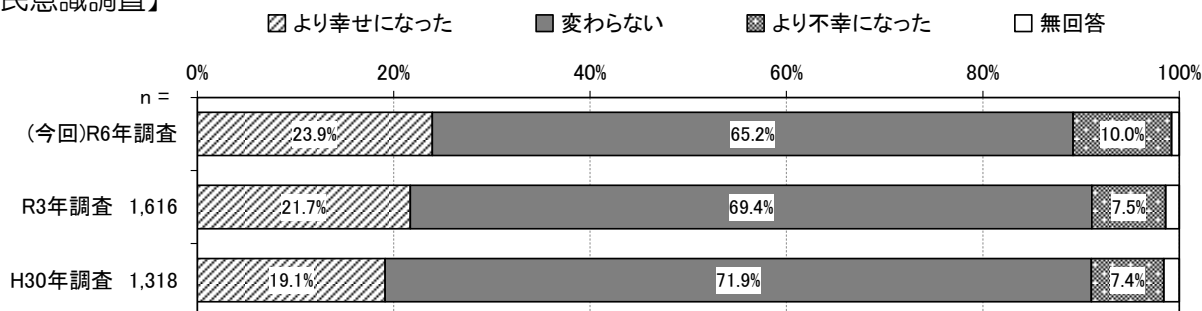


【中学生意識調査】



図表-4 5年前と比べた幸福感の変化(過去調査との比較)

【町民意識調査】

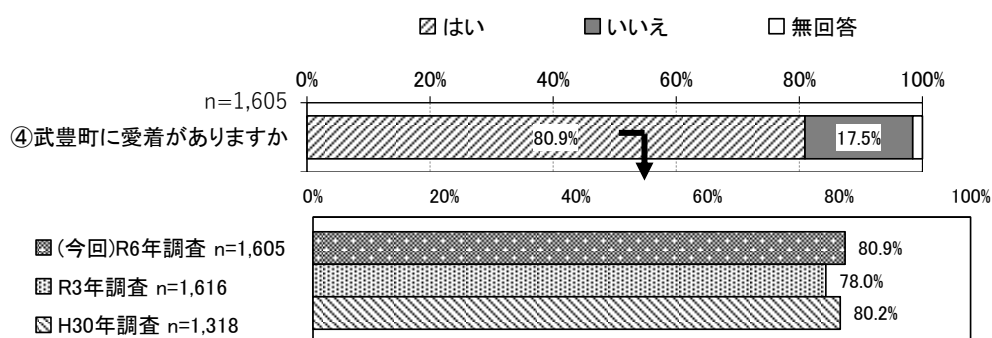


(3) 武豊町への愛着、町の魅力・イメージ

- ・町民意識調査の「図表-5 武豊町への愛着」では、80.9%が「武豊町に愛着がある」と回答しており、令和3年調査、平成30年調査よりも高くなっています。
- ・中学生意識調査の「図表-6 武豊町に対する好感度」では、9割以上(94.3%)が『武豊町のことが好き』と回答しており、令和3年調査、平成30年調査よりも高くなっています。
- ・若者・子育て世代アンケート調査の「図表-7 武豊町への愛着や親しみ」では、約7割(73.3%)が武豊町に愛着や親しみを『感じている』と回答しており、令和3年調査、平成30年調査よりも高くなっています。
- ・これらの調査結果から、町民の大半は町への愛着を持っていることがわかります。
- ・「図表-8 町の魅力、自慢できること」では「良好な居住環境」、「山車・祭りなどの伝統文化」、「緑地や河川、湿地などの自然環境」、「醸造業などの地場産業と町並み」、「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」の5項目が2割以上の回答を得ています。

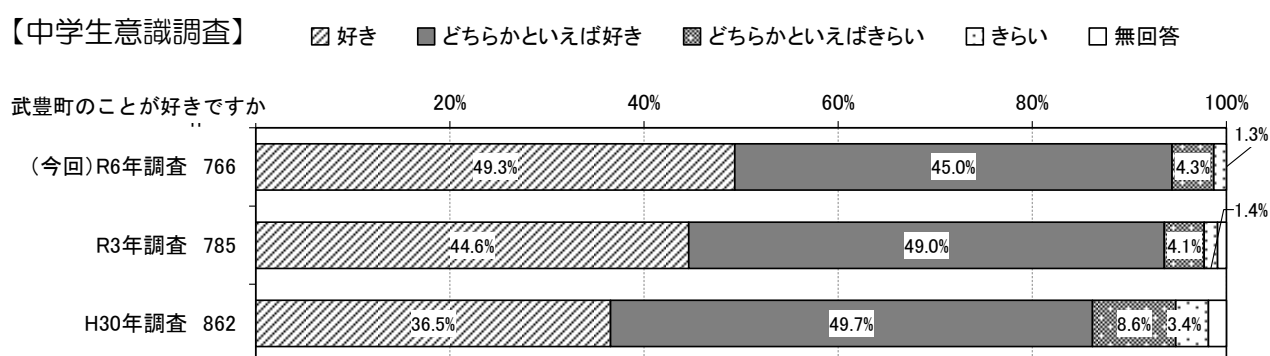
図表-5 武豊町への愛着(過去調査との比較)

【町民意識調査】



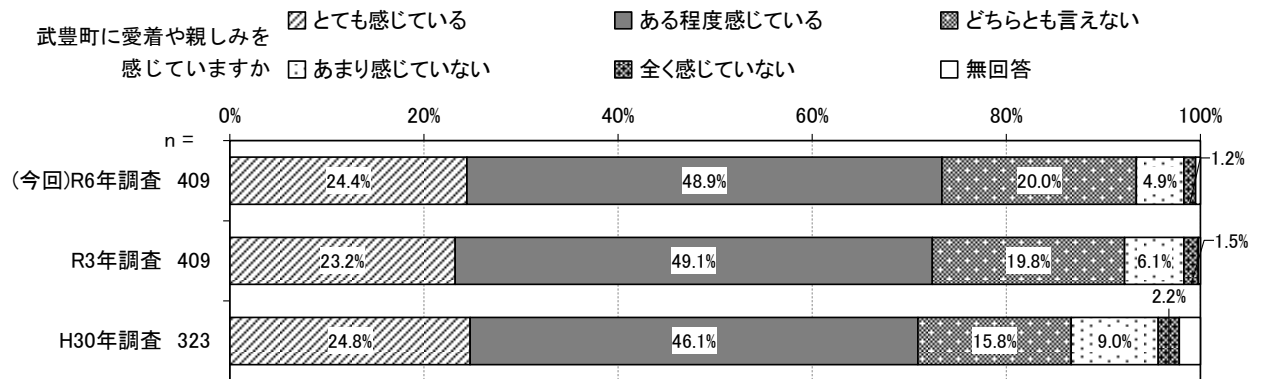
図表-6 武豊町に対する好感度(過去調査との比較)

【中学生意識調査】



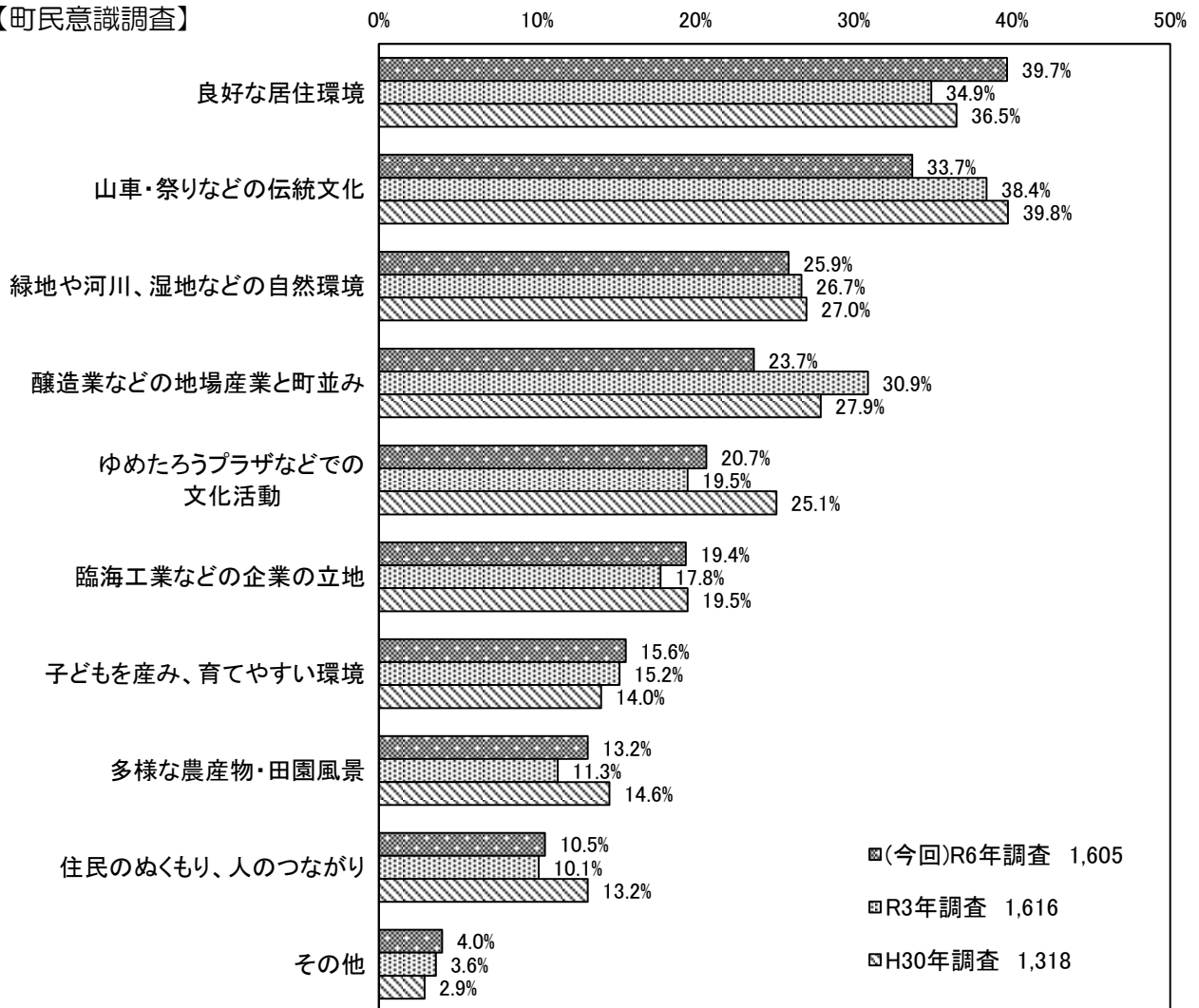
図表-7 武豊町への愛着や親しみ(過去調査との比較)

【若者・子育て世代】



図表-8 町の魅力、自慢できること(過去調査との比較) -複数回答(3つまで)-

【町民意識調査】



(4)まちづくりに対する評価

・町民意識調査では、第6次総合計画で進めている37項目の取組について、満足度と重要度を評価しました。その結果、『重要度指数』が高いにも関わらず『満足度指数』が低い「重点改善分野」には次の7項目が該当する結果となりました。

- ・ 4:公共交通機関が利用しやすく便利である
- ・15:病院や休日診療などを受診しやすい
- ・17:高齢者や障がい者がいきいきと暮らしている
- ・18:災害への備えや安全性が確保されている
- ・20:徒歩や自転車で安全に道路を通行できる
- ・32:行政に町民の意向が反映されている
- ・34:行政サービスが充実している

・令和3年調査でも「4:公共交通機関が利用しやすく便利である」、「14:病院や休日診療などを受診しやすい」、「20:徒歩や自転車で安全に道路を通行できる」、「32:行政に町民の意向が反映されている」、「34:行政サービスが充実している」、「37:健全に行財政が運営されている」の6項目が「重点改善分野」になっていましたが、今回調査では「37:健全に行財政が運営されている」がはずれる一方、新たに「17:高齢者や障がい者がいきいきと暮らしている」と「18:災害への備えや安全性が確保されている」が追加され、合計で7項目になっています。

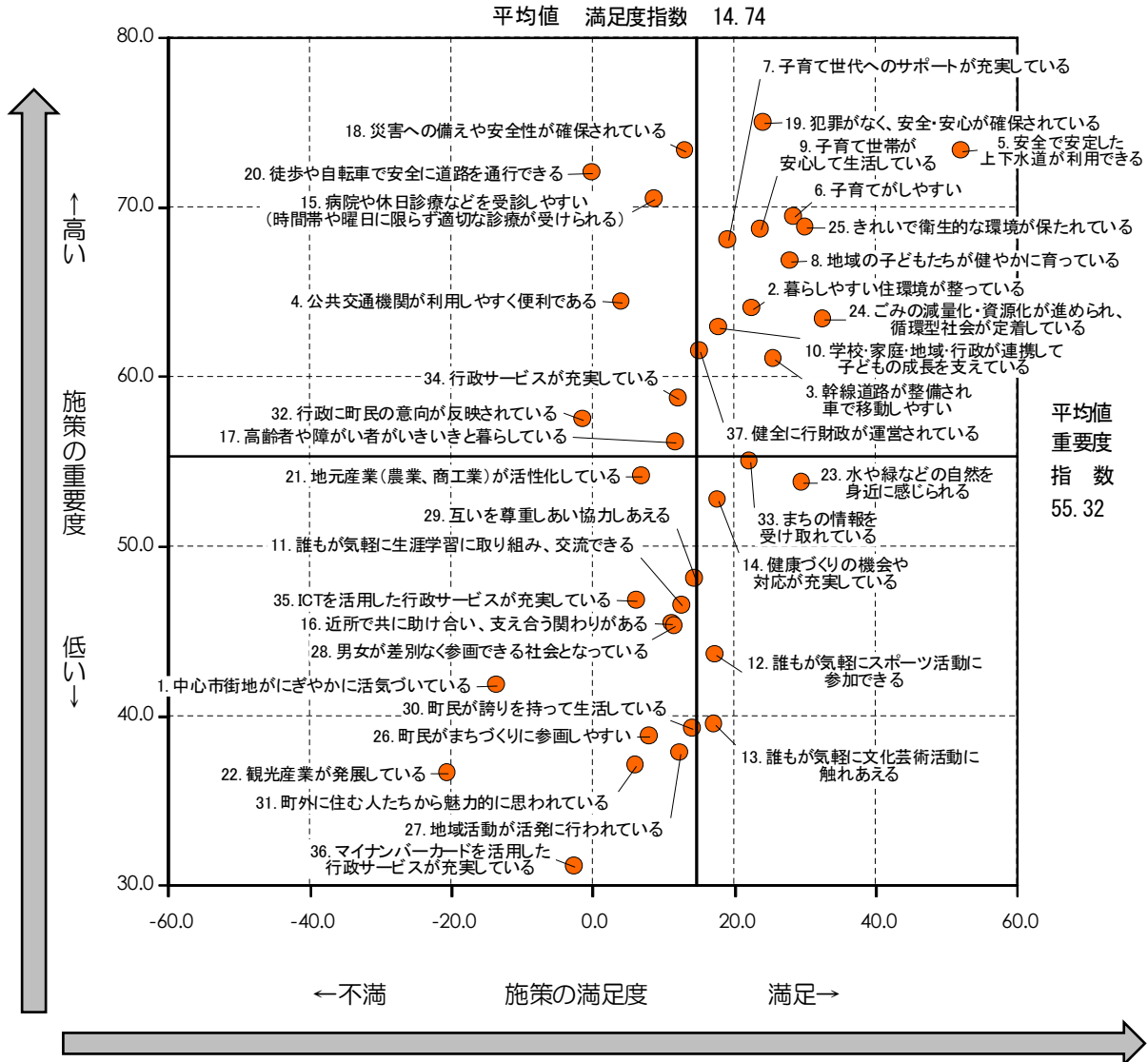
・なお、今回の令和6年調査では「7:子育て世代へのサポートが充実している」、「35:デジタル機器やICTを活用した行政サービスが充実している」、「36:マイナンバーカードを活用した行政サービスが充実している」の3項目を新たに追加していますが、「7:子育て世代へのサポートが充実している」は他の子ども関連の項目と同様に、『重要度指数』も『満足度指数』も高い「継続増進分野」となっています。また、「35:デジタル機器やICTを活用した行政サービスが充実している」と「36:マイナンバーカードを活用した行政サービスが充実している」については、『重要度指数』も『満足度指数』も低い「改善分野」となっています。

表-9 満足度指数と重要度指数からみた施策評価の考え方

高い ↑ 重要度指数 ↓ 低い	A 重点改善分野 町民が重要と感じている項目でありながら満足度が低い。重点的に課題解決に取り組む必要がある施策分野。	B 継続増進分野 町民が重要と感じており、満足度も高い。現在の施策水準を維持または増進していく必要がある施策分野。
	C 改善分野 町民は重要と感じていない項目で満足度も低い。事業の必要性の検証や内容の見直し等の改善が必要となる分野。	D 維持分野 町民は重要と感じていない項目であるが満足度は高い。事業の必要性を検証し、満足度を維持していく施策分野。
	低い ← 満足度指数 → 高い	

図表-10 満足度指数と重要度指数 散布図

【町民意識調査】



基本目標	No	施策項目	満足度指数	重要度指数
分野1 都市環境	1	中心市街地がにぎやかに活気づいている	-13.44	41.73
	2	暮らしやすい住環境が整っている	22.66	63.94
	3	幹線道路が整備され車で移動しやすい	25.78	61.02
	4	公共交通機関が利用しやすく便利である	4.28	64.35
	5	安全で安定した上下水道が利用できる	52.34	73.26
分野2 子ども	6	子育てがしやすい	28.59	69.38
	7	子育て世代へのサポートが充実している	19.31	67.98
	8	地域の子どもたちが健やかに育っている	28.12	66.75
	9	子育て世帯が安心して生活している	23.88	68.61
分野3 学び	10	学校・家庭・地域・行政が連携して子どもの成長を支えている	18.03	62.82
	11	誰もが気軽に生涯学習に取り組み、交流できる	12.79	46.47
	12	誰もが気軽にスポーツ活動に参加できる	17.49	43.53
	13	誰もが気軽に文化芸術活動に触れあえる	17.41	39.47
分野4 健康・福祉	14	健康づくりの機会や対応が充実している	17.94	52.65
	15	病院や休日診療などを受診しやすい（時間帯や曜日に限らず適切な診療が受けられる）	8.95	70.40
	16	近所で共に助け合い、支え合う関わりがある	11.44	45.37
	17	高齢者や障がい者がいきいきと暮らしている	11.92	56.09
分野5 安全・安心	18	災害への備えや安全性が確保されている	13.34	73.24
	19	犯罪がなく、安全・安心が確保されている	24.28	74.91
	20	徒歩や自転車で安全に道路を通行できる	0.10	71.95
分野6 産業・交流	21	地元産業（農業、商工業）が活性化している	7.06	54.10
	22	観光産業が発展している	-20.28	36.57
分野7 環境	23	水や緑などの自然を身近に感じられる	29.76	53.71
	24	ごみの減量化・資源化が進められ、循環型社会が定着している	32.85	63.34
	25	きれいで衛生的な環境が保たれている	30.26	68.77
分野8 まちづくり ・地域経営	26	町民がまちづくりに参画しやすい	8.20	38.75
	27	地域活動が活発に行われている	12.52	37.76
	28	男女が差別なく参画できる社会となっている	11.82	45.26
	29	互いを尊重しあい協力しあえる	14.62	48.06
	30	町民が誇りを持って生活している	14.34	39.20
	31	町外に住む人たちから魅力的に思われている	6.31	37.06
分野9 行財政	32	行政に町民の意向が反映されている	-1.19	57.40
	33	まちの情報を受け取れている	22.36	54.96
	34	行政サービスが充実している	12.26	58.66
	35	ICTを活用した行政サービスが充実している	6.44	46.76
	36	マイナンバーカードを活用した行政サービスが充実している	-2.41	31.10
	37	健全に行財政が運営されている	15.33	61.45
平均値			14.74	55.32

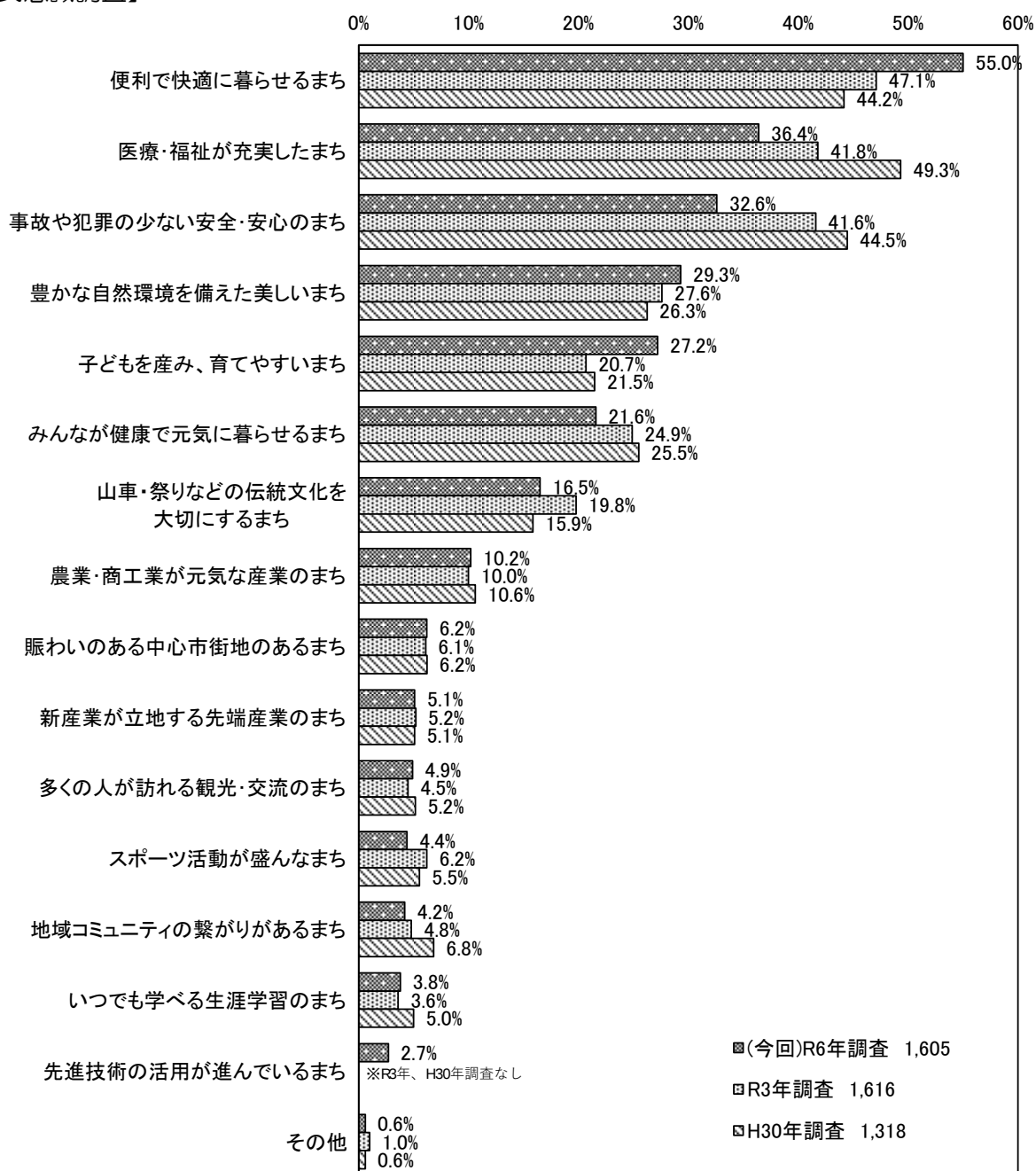
※「分野1～9」は、第6次武豊町総合計画の「基本計画 分野別計画」に相当。

(5) 今後のまちづくり

・町民意識調査の、「図表-11 将来の町のイメージ」では、「便利で快適に暮らせるまち」、「医療・福祉が充実したまち」、「事故や犯罪の少ない安全・安心のまち」の3項目が3割を超える高い回答を得ています。令和3年調査と比較すると、「便利で快適に暮らせるまち」は7.9ポイント上昇しています。また、「子どもを産み、育てやすいまち」は6.5ポイント上昇しています。

図表-11 将来の町のイメージ(過去調査との比較) -複数回答(3つまで)-

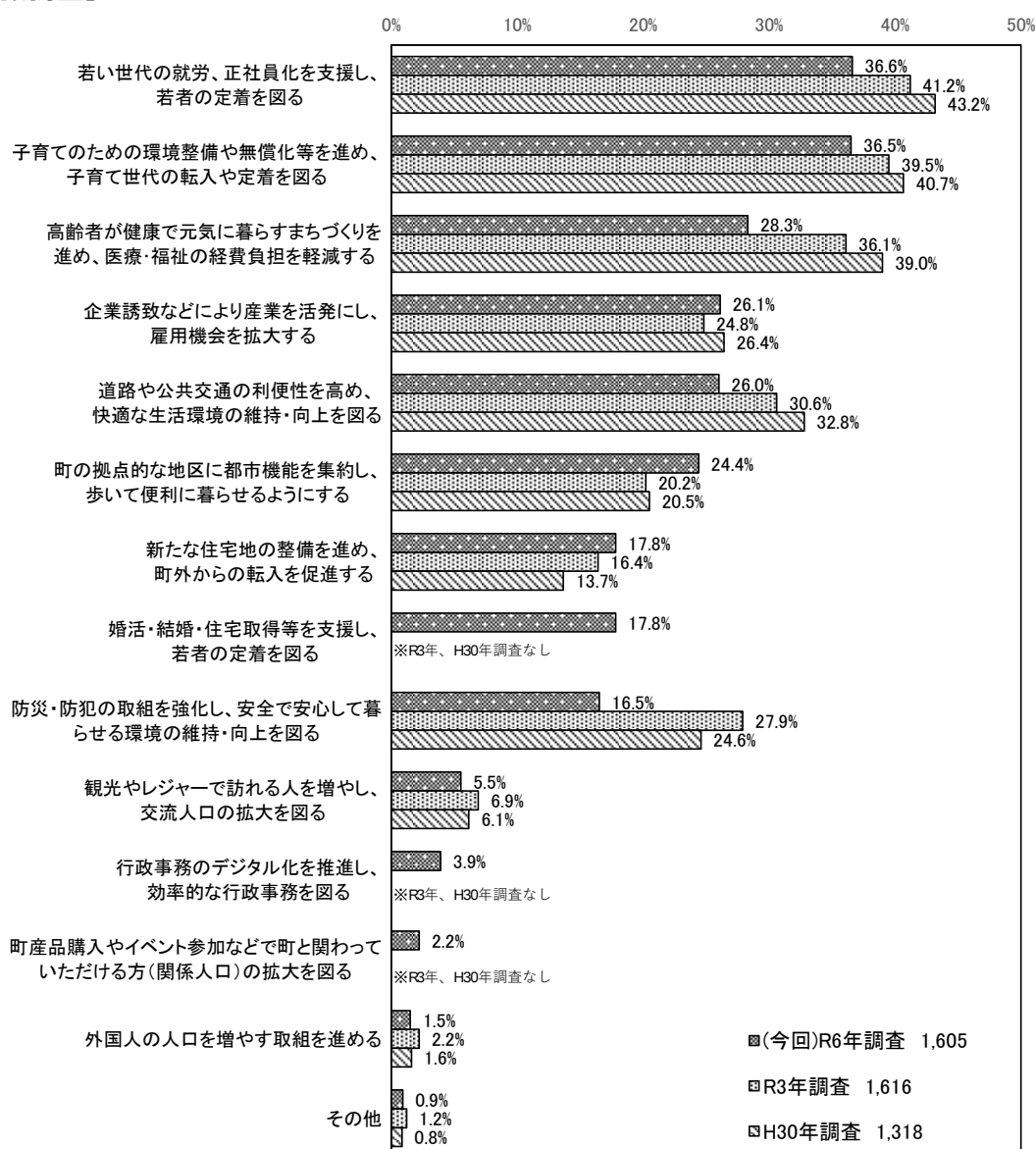
【町民意識調査】



・町民意識調査の、「図表-12 人口減少に対応するための取組」では、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」、「子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る」、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」、「企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する」、「道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る」、「町の拠点的な地区に都市機能を集約し、歩いて便利に暮らせるようにする」の6項目が2割以上の回答を得ています。なお、これら6項目について令和3年調査と比べると、「町の拠点的な地区に都市機能を集約し、歩いて便利に暮らせるようにする」は 4.2 ポイント、「企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する」は 1.3 ポイント上昇しています。

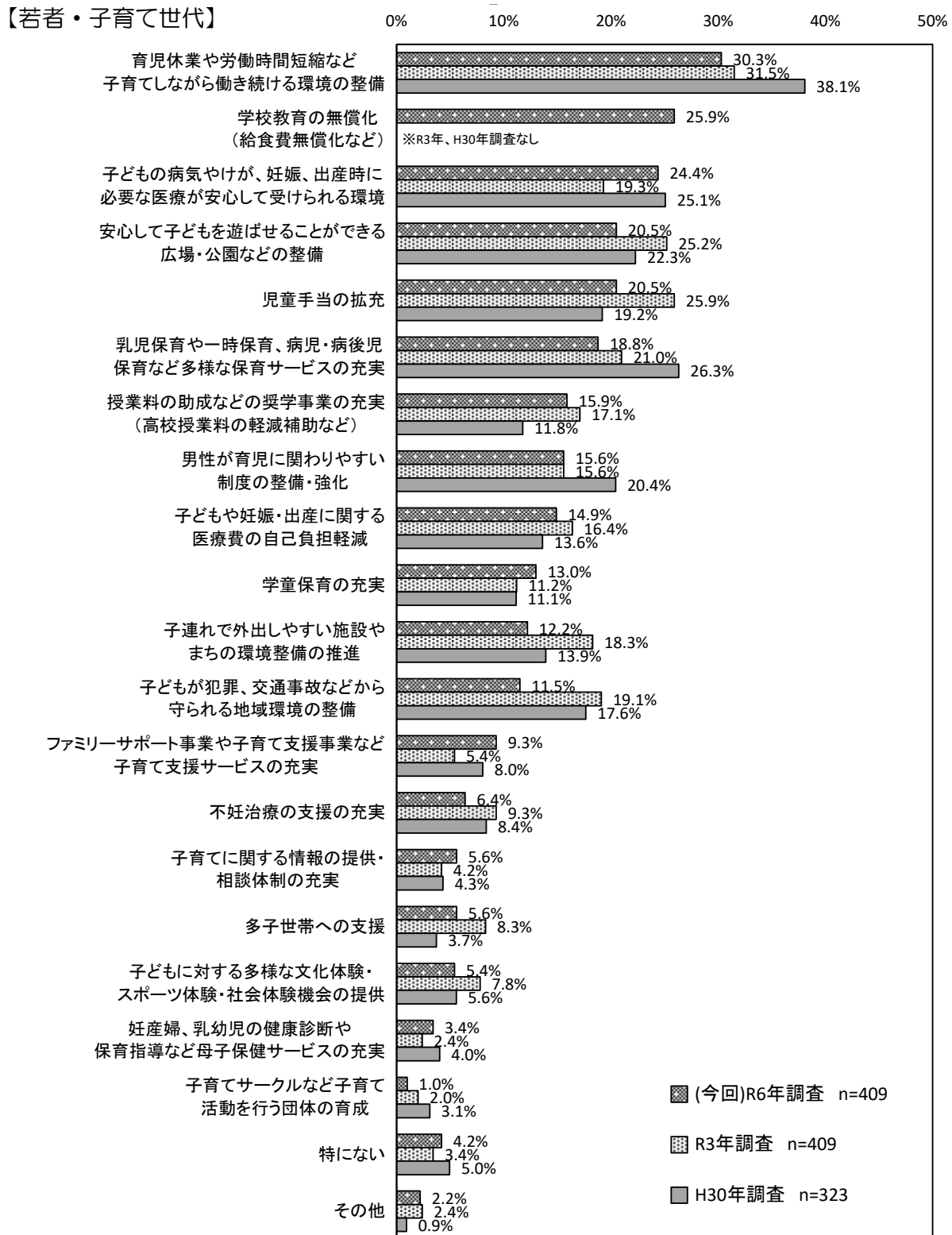
図表-12 人口減少に対応するための取組(過去調査との比較) -複数回答(3つまで)-

【町民意識調査】



・若者・子育て世代アンケート調査の、「図表-13 子育てしやすい町にするために力を入れること」では、「育児休業や労働時間短縮など子育てしながら働き続ける環境の整備」、「学校教育の無償化(給食無償化など)」、「子どもの病気やけが、妊娠、出産時に必要な医療が安心して受けられる環境」の3項目が上位3つを占めました。

図表-13 子育てしやすい町にするために力を入れること(過去調査との比較) -複数回答(3つまで)



※今回調査より、新たに選択肢「学校教育の無償化(給食費無償化など)」を設けて回答を求めた。

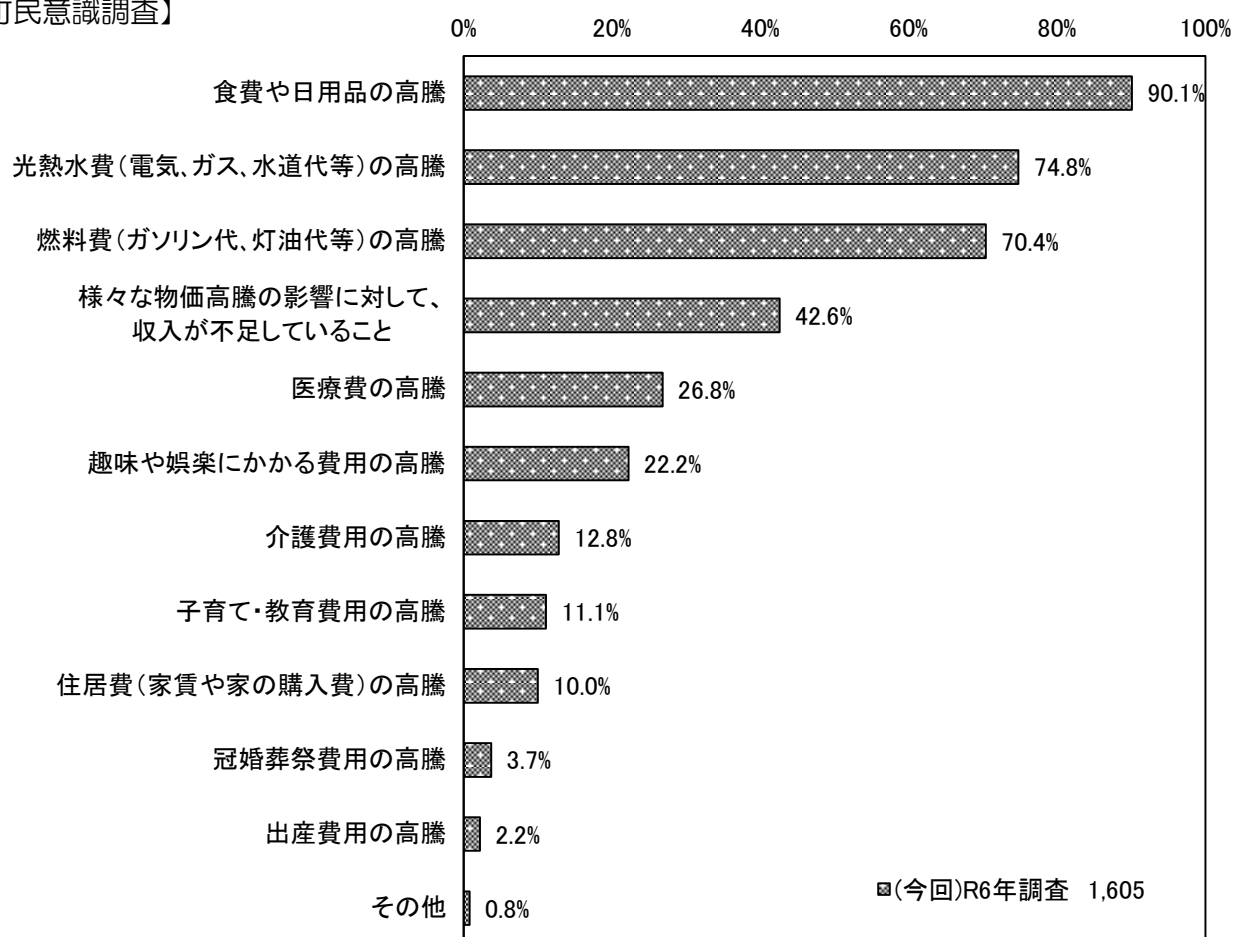
2 物価高騰、SDGs、ゼロカーボンシティ宣言関係アンケート調査について (①町民意識調査・④企業・事業所アンケート調査内で実施)

(1)物価高騰による家計への影響

- ・「図表-14 物価高騰による家計への影響」では、「食費や日用品の高騰」、「光熱費(電気、ガス、水道代等)の高騰」、「燃料費(ガソリン代、灯油代等)の高騰」が高くなっています。
- ・「図表-15 行政に期待すること」では、「商品券の配布」、「水道料金の減免」、「医療費の補助」が高くなっています。
- ・一方、企業・事業所にとっての物価高騰等による経営への影響をみると、「図表-16 物価高騰等の影響の度合い」では、「影響がある(継続している)」と回答した事業所は76.2%を占めています。特に製造業、運輸業・郵便業で高くなっています。
- ・「図表-17 物価高騰等への対応」では、「価格転嫁(既存商品・サービスの値上げ)」、「人件費以外の経費削減」、「工程改善・業務の効率化」などが行われています。

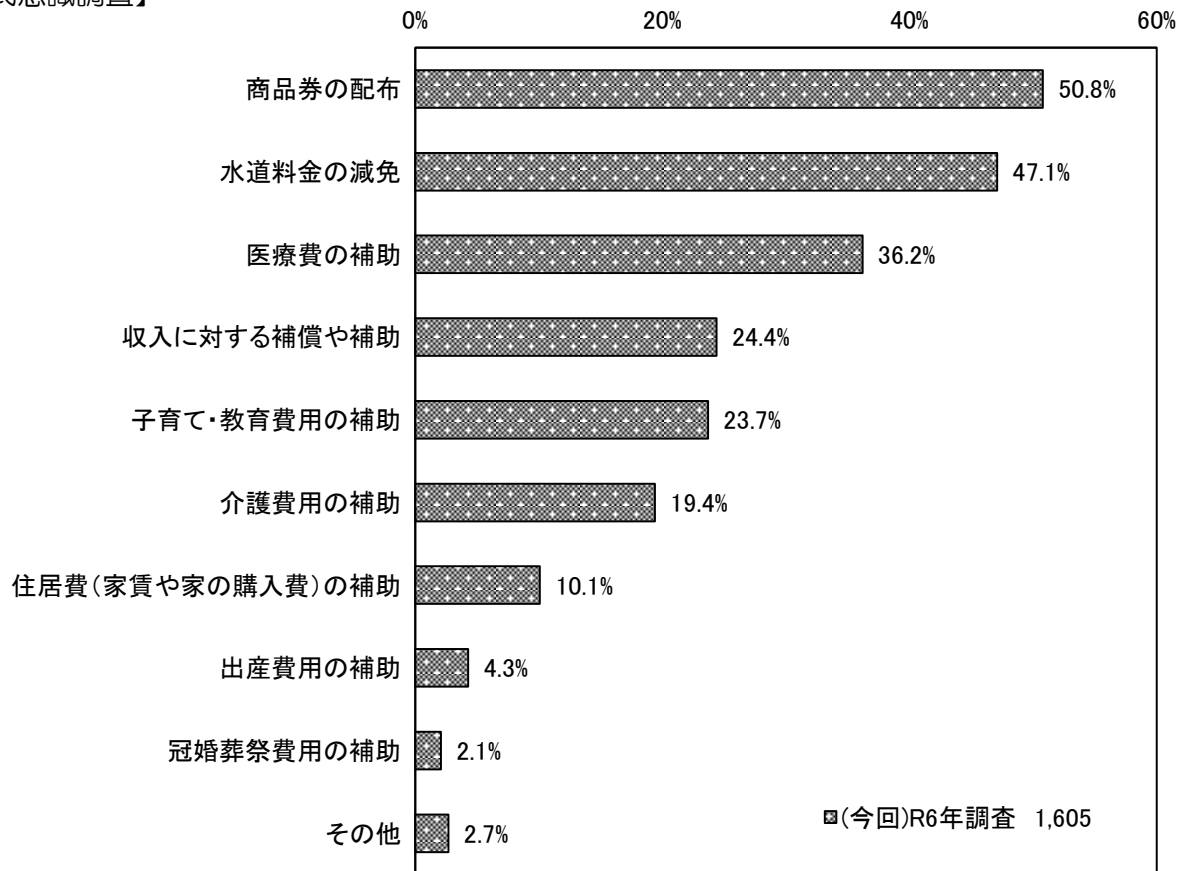
図表-14 物価高騰による家計への影響 -複数回答(該当するものすべて)-

【町民意識調査】

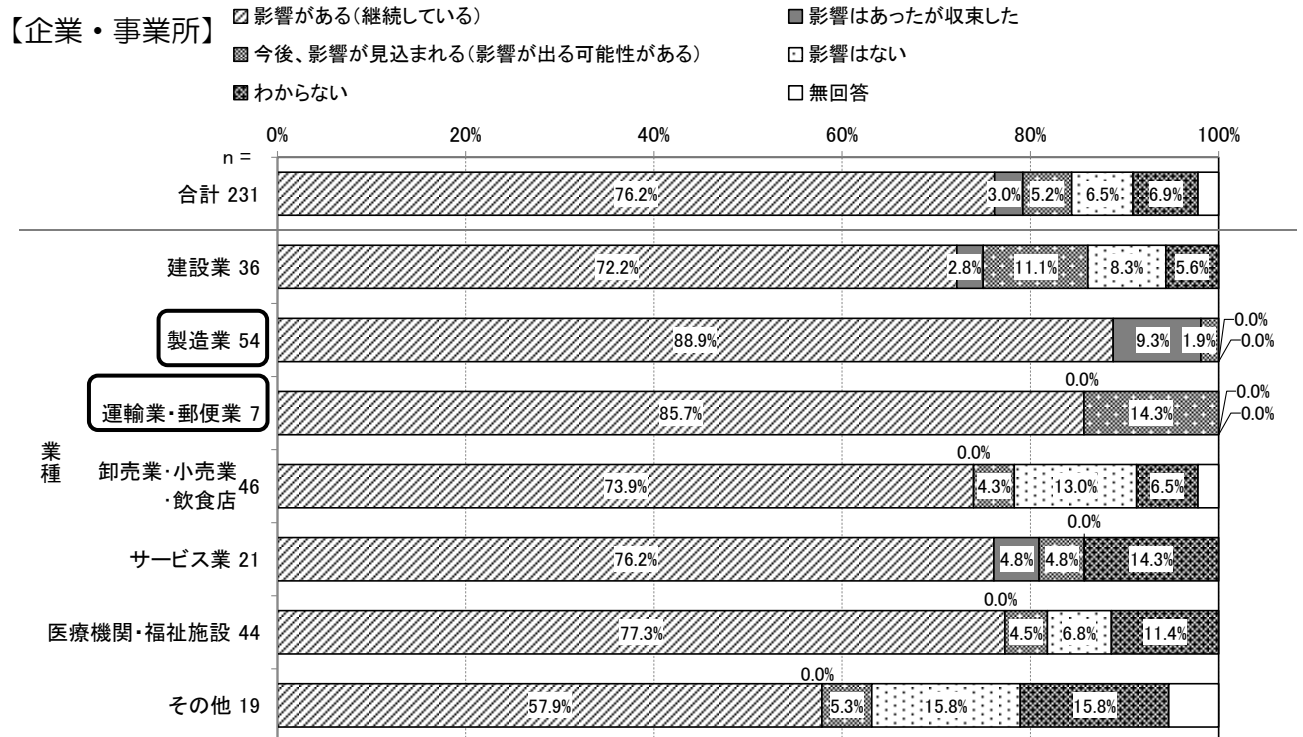


図表-15 行政に期待すること -複数回答(3つまで)-

【町民意識調査】

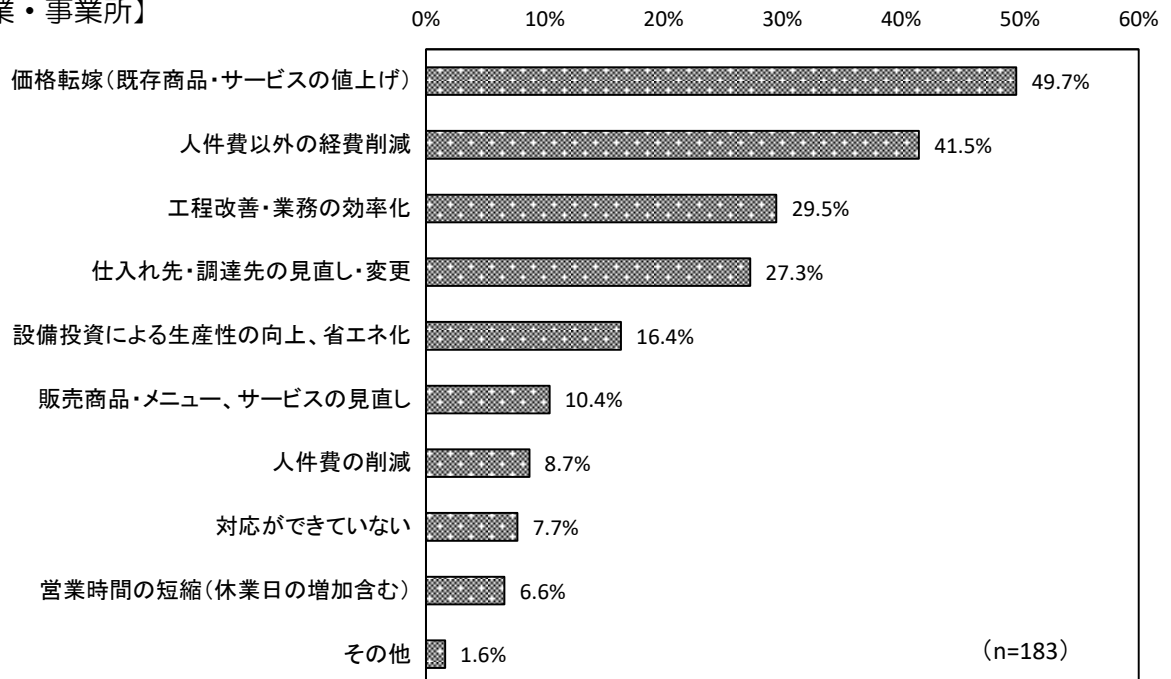


図表-16 物価高騰等の影響の度合い



図表-17 物価高騰等への対応 -複数回答(該当するものすべて)-

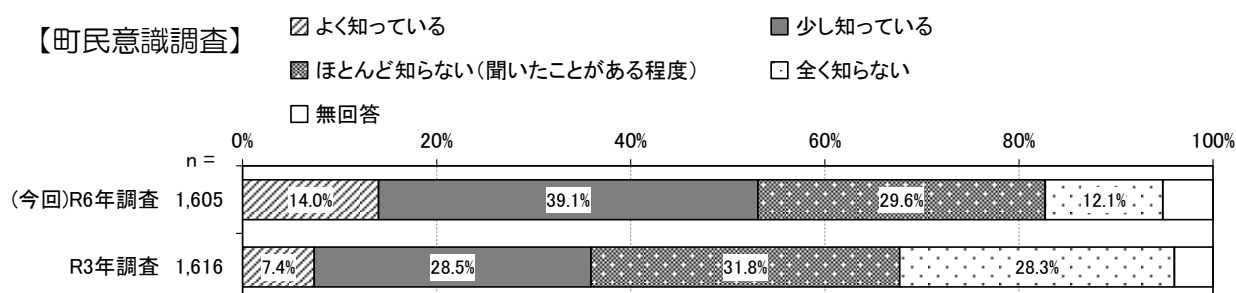
【企業・事業所】



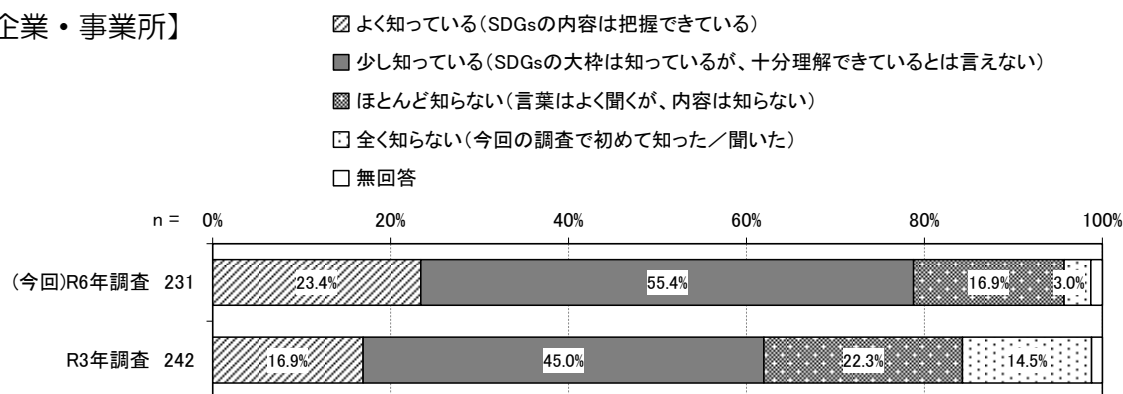
(2)SDGs

- ・「**図表-18 SDGs (持続可能な開発目標)の認知度**」では、『知っている(「よく知っている」+「少し知っている」)』は、町民では 53.1%で半数以上を占めており、令和3年調査に比べて 17.2 ポイント上昇しています。また、企業・事業所では 78.8%と高く、令和3年調査に比べて 16.9 ポイント上昇し、認知度が高まっています。
- ・SDGsのことを『知っている(「よく知っている」+「少し知っている」)』のうちで、**図表-19 SDGs に貢献する行動への取組**では、「取り組んでいる」が町民は 38.1%で、令和3年調査に比べて4ポイント低下しています。企業・事業所は50.0%で、令和3年調査に比べて5.3ポイント上昇しています。

図表-18 SDGs 認知度(過去調査との比較)

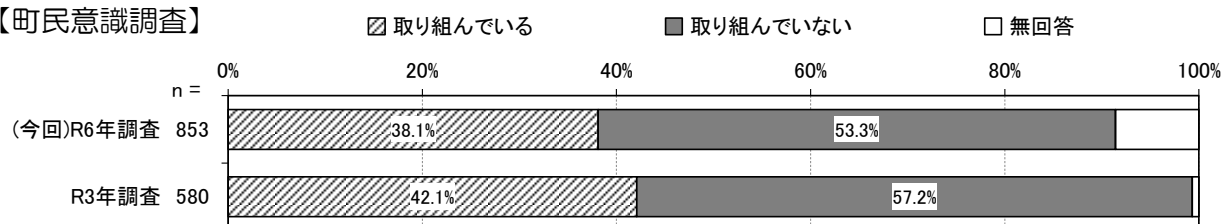


【企業・事業所】

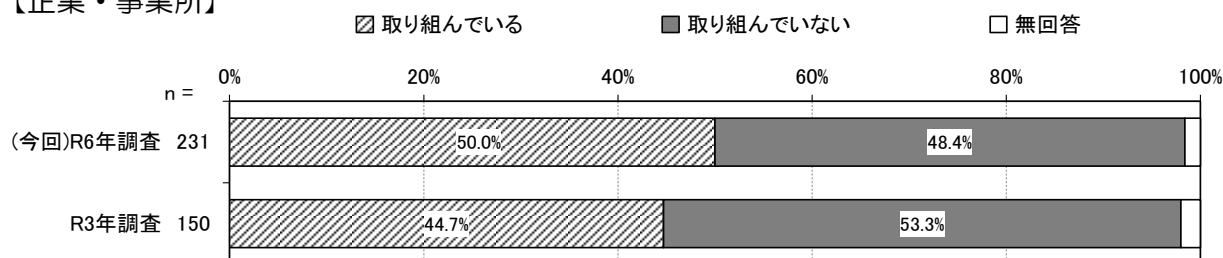


図表-19 SDGs に貢献する行動への取組(過去調査との比較)

【町民意識調査】



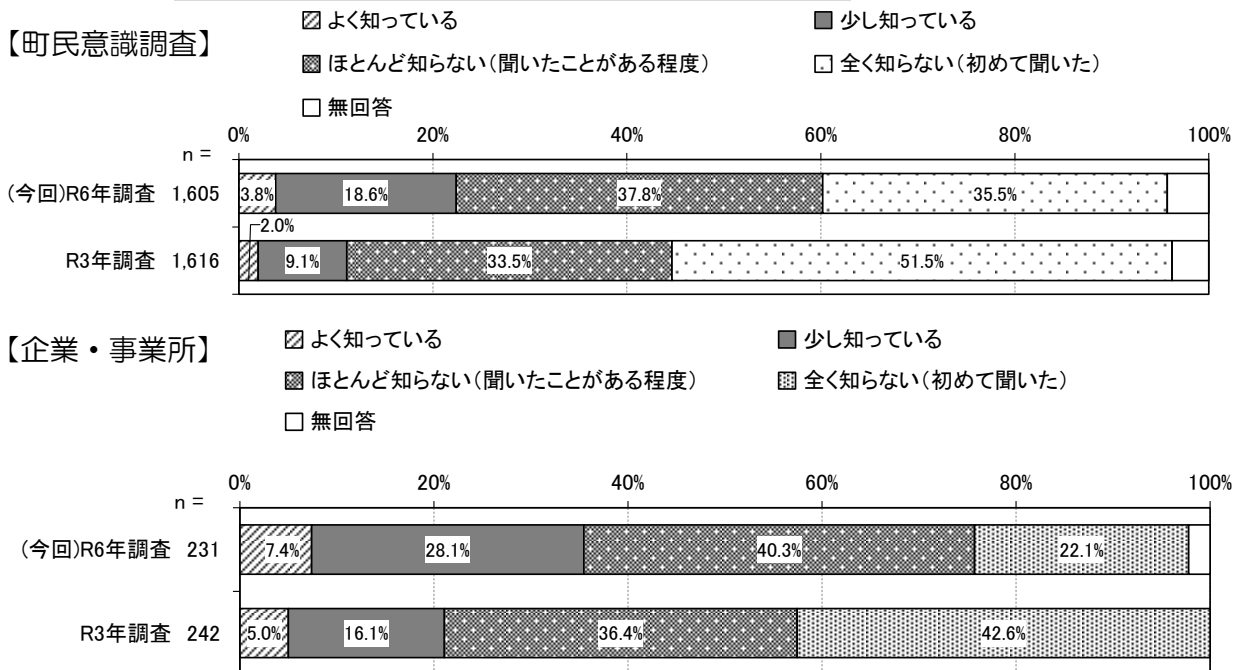
【企業・事業所】



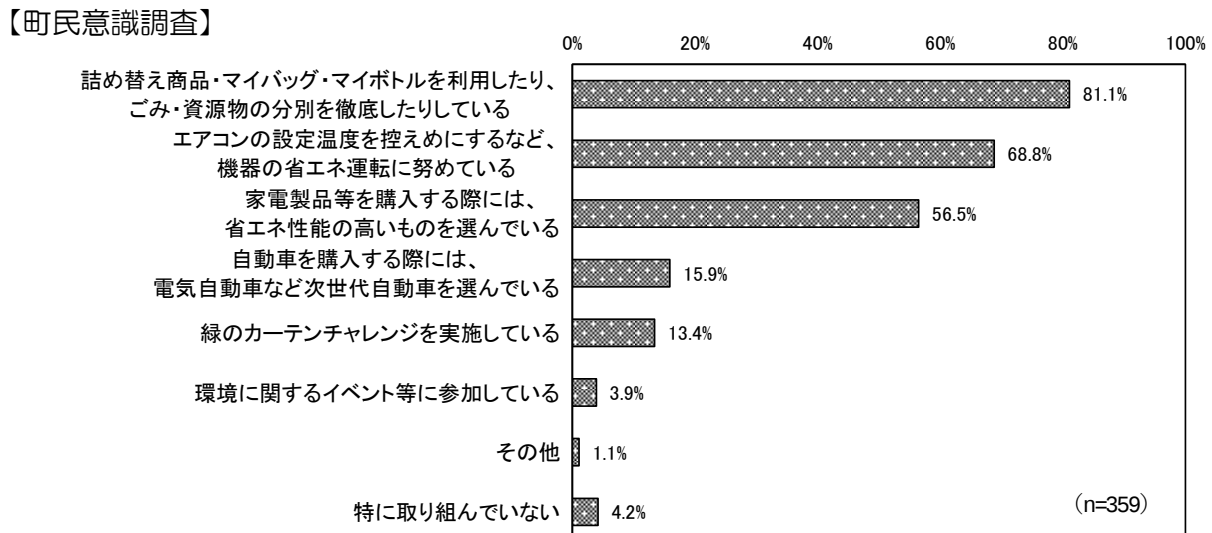
(3)脱炭素社会の実現

- ・図表-20 「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度では、『知っている(「よく知っている」+「少し知っている」)』は、22.4%で、令和3年調査に比べて 11.3 ポイント上昇しています。また、企業・事業所での認知度は 35.5%で、令和3年調査に比べて 14.4 ポイント上昇しています。
- ・「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」を『知っている(「よく知っている」+「少し知っている」)』のうちで、「図表-21 地球温暖化防止対策に取り組んでいること」では町民は「詰め替え商品・マイバッグ・マイボトルを利用したり、ごみ・資源物の分別を徹底したりしている」、「エアコンの設定温度を控えめにするなど、機器の省エネ運転に努めている」、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでい

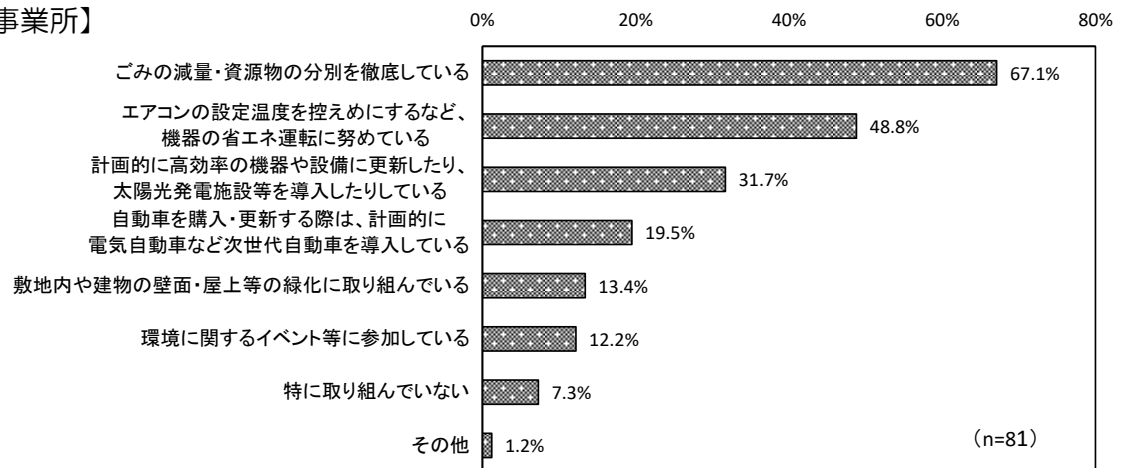
図表-20 「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度(過去調査との比較)



図表-21 地球温暖化防止対策に取り組んでいること



【企業・事業所】



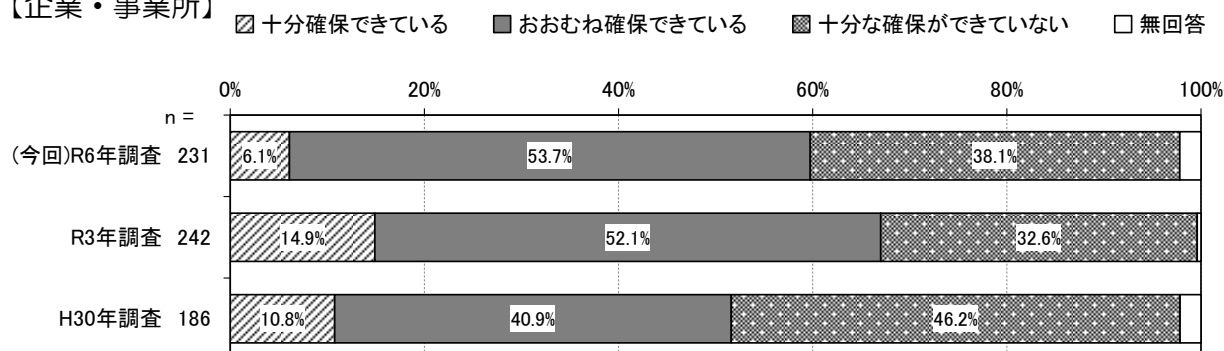
3 ④企業・事業所アンケート調査について

(1) 今後の事業展望

- ・「図表-22 人材確保の見通し」では、令和3年調査と比較して「十分確保できている」が8.8ポイント低くなる一方で、「十分な確保ができていない」は5.5ポイント高くなっており、人材を確保できていない事業所が増えています。
- ・「図表-23 増加したい人材の勤務形態」では、正社員を確保したいと考える事業所が7割となっています。
- ・「図表-24 業績の展望に大きな影響を受けるとされる要因」では、「人件費コスト」が最も高くなっており、これに次いで「原材料等コストの動向」、「同業他社との競合・競争」、「国内の市場動向」、「労働力市場の動向(労働力不足)」が高くなっています。
- ・「図表-25 事業所の立地場所としての評価」では、自然環境条件や従業員の生活環境、道路・交通条件は立地場所として高く評価していますが、労働力の確保の容易性は低い評価になっており、労働力を確保することが難しい場所だと評価しています。
- ・「図表-26 今後のビジネス展開を行うために必要なこと」では、「人材確保や人材育成に関する情報提供や支援の充実」、「道路交通網の整備」、「公共交通の利便性の向上」が求められています。

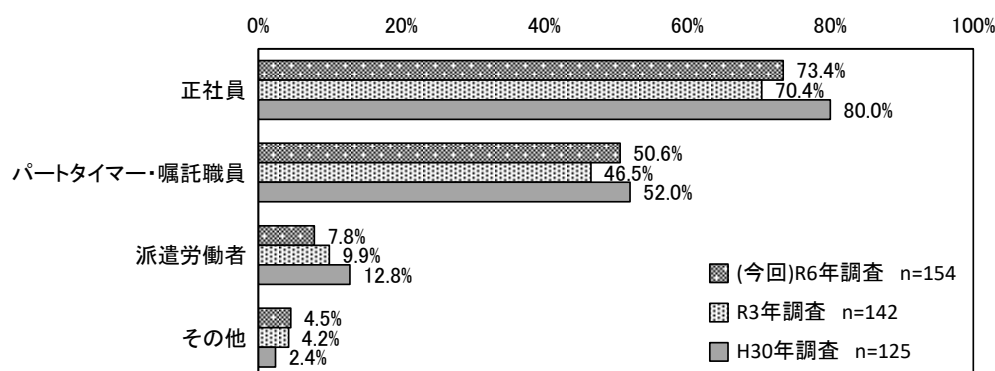
図表-22 人材確保の見通し(過去調査との比較)

【企業・事業所】



図表-23 増加したい人材の勤務形態(過去調査との比較)

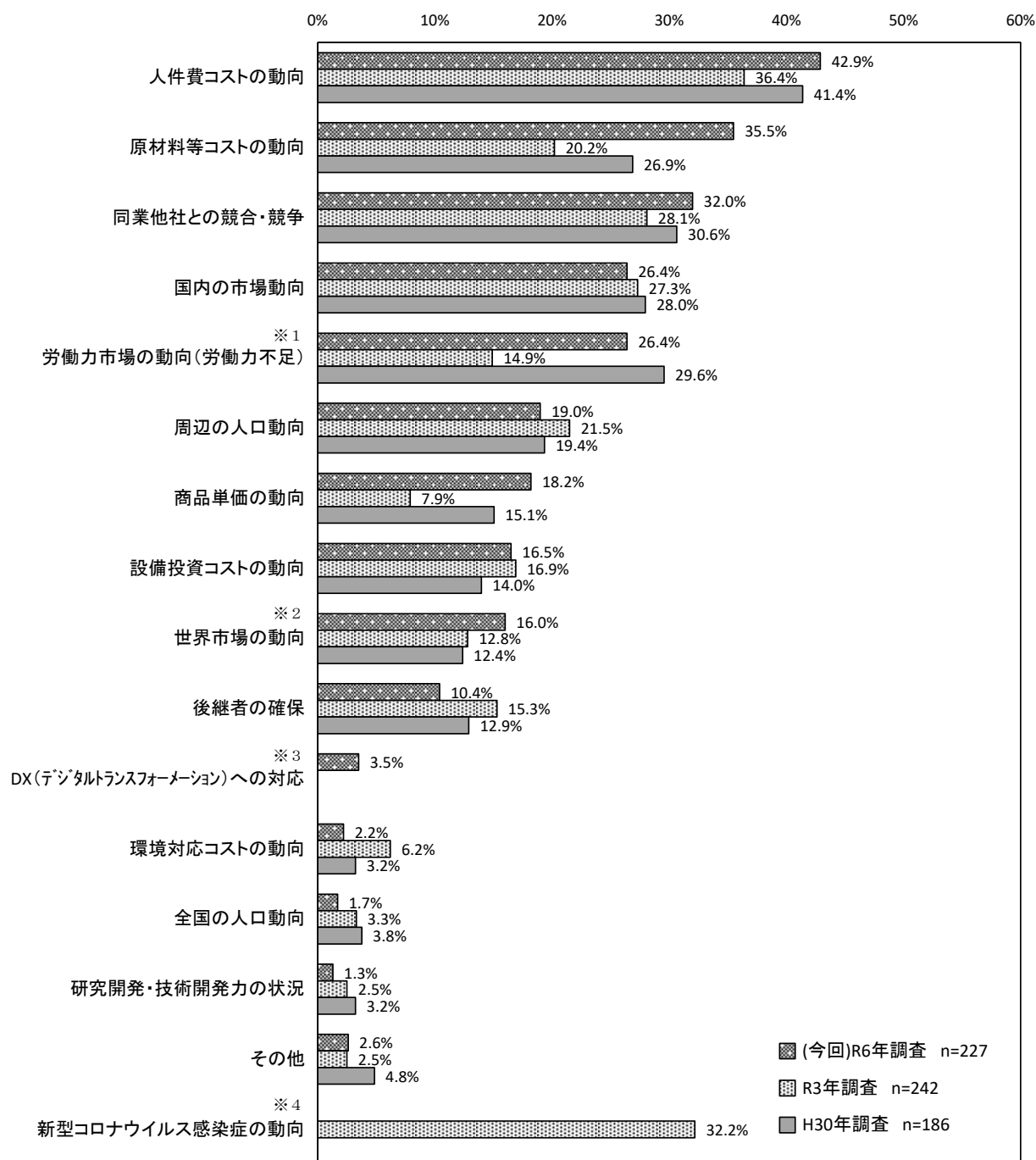
【企業・事業所】



図表-24 業績の展望に大きな影響を受けるとされる要因(過去調査との比較)

【企業・事業所】

-複数回答(3つまで)-



※1：「労働力市場の動向(労働力不足)」は、R3年度調査以前では「労働力市場(労働力の確保に見通し)」としていた。

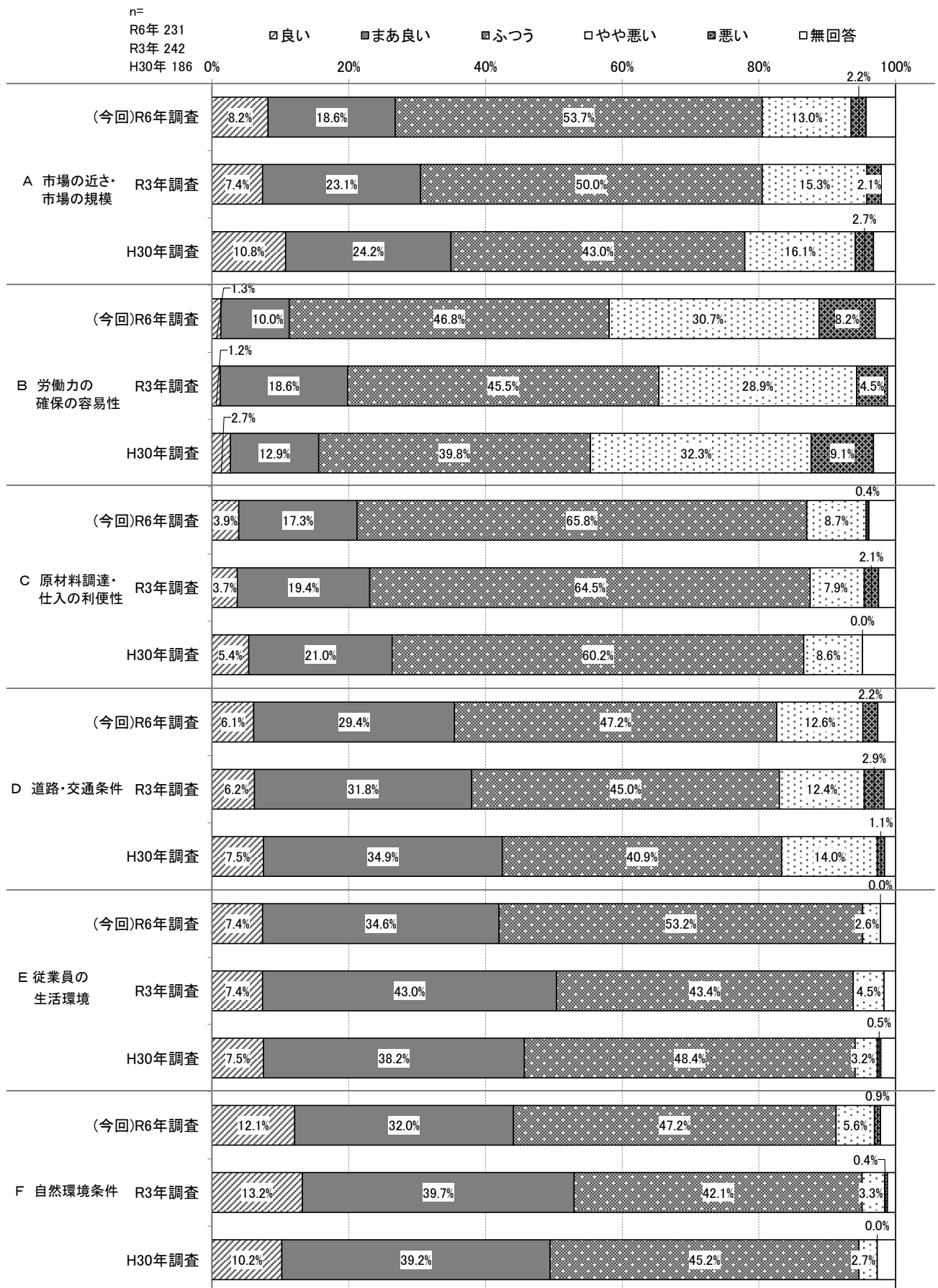
2：「世界市場の動向」は、R3年度調査以前では「市場の動向」としていた。

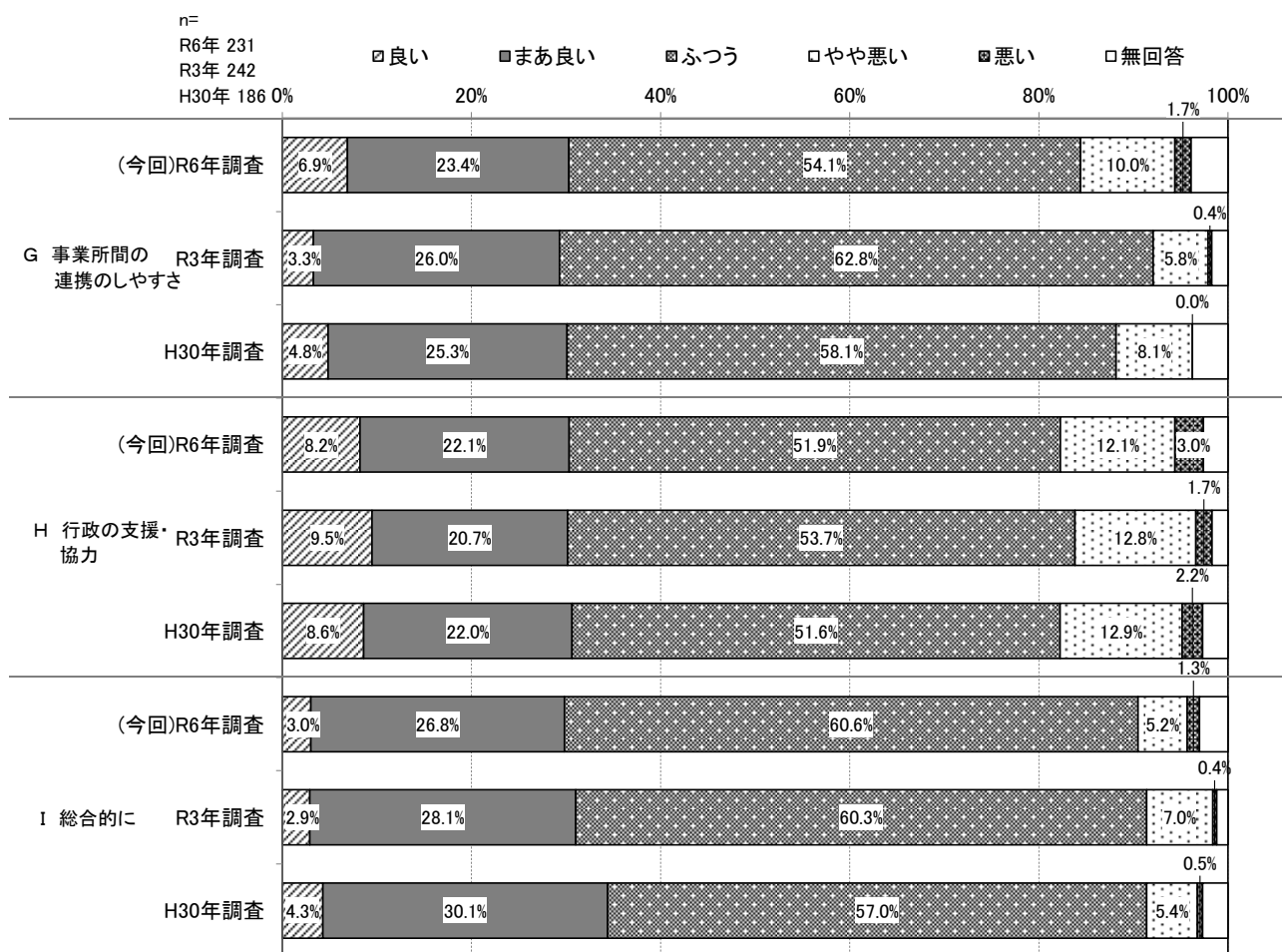
3：「DX(デジタルトランスフォーメーション)への対応」は今回調査から選択肢に加えたため、R3年以前は調査していない。

4：「新型コロナウイルス感染症の動向」は、R3年度調査のみ選択肢に加えたため、今回およびH30年には調査していない。

図表-25 事業所の立地場所としての評価(過去調査との比較)

【企業・事業所】

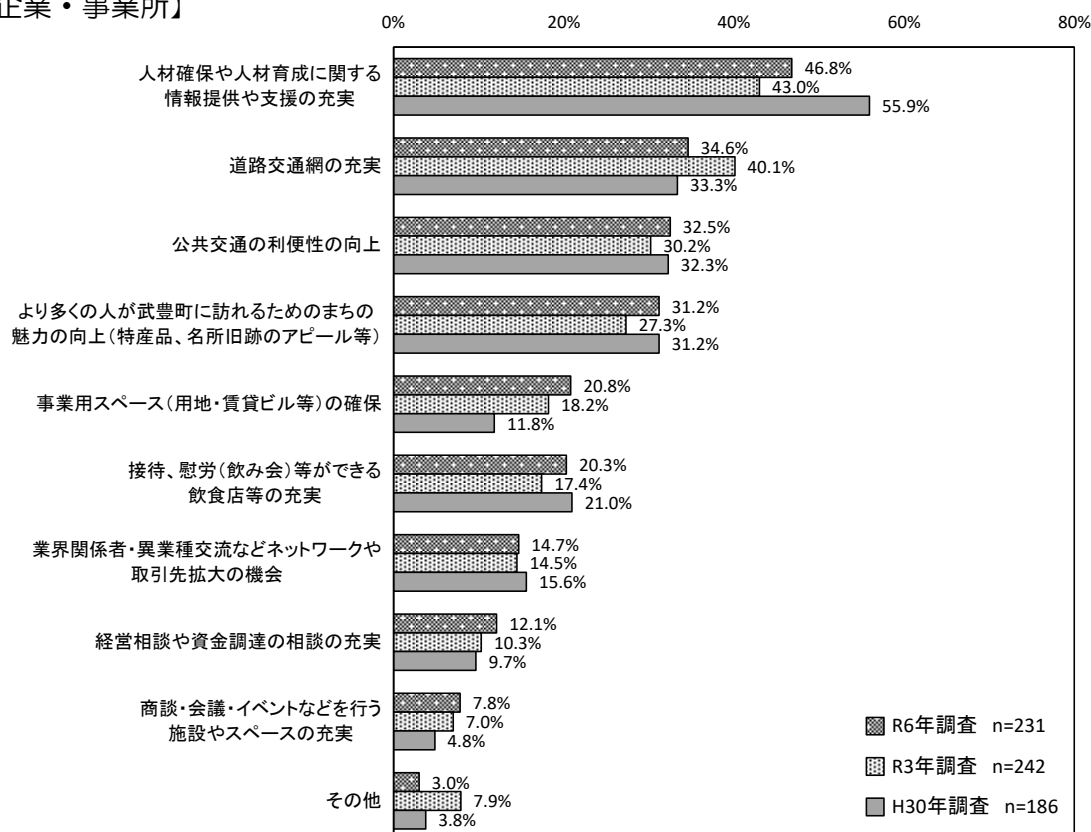




図表-26 今後のビジネス展開を行うために必要なこと(過去調査との比較)

【企業・事業所】

-複数回答(該当するものすべて)-

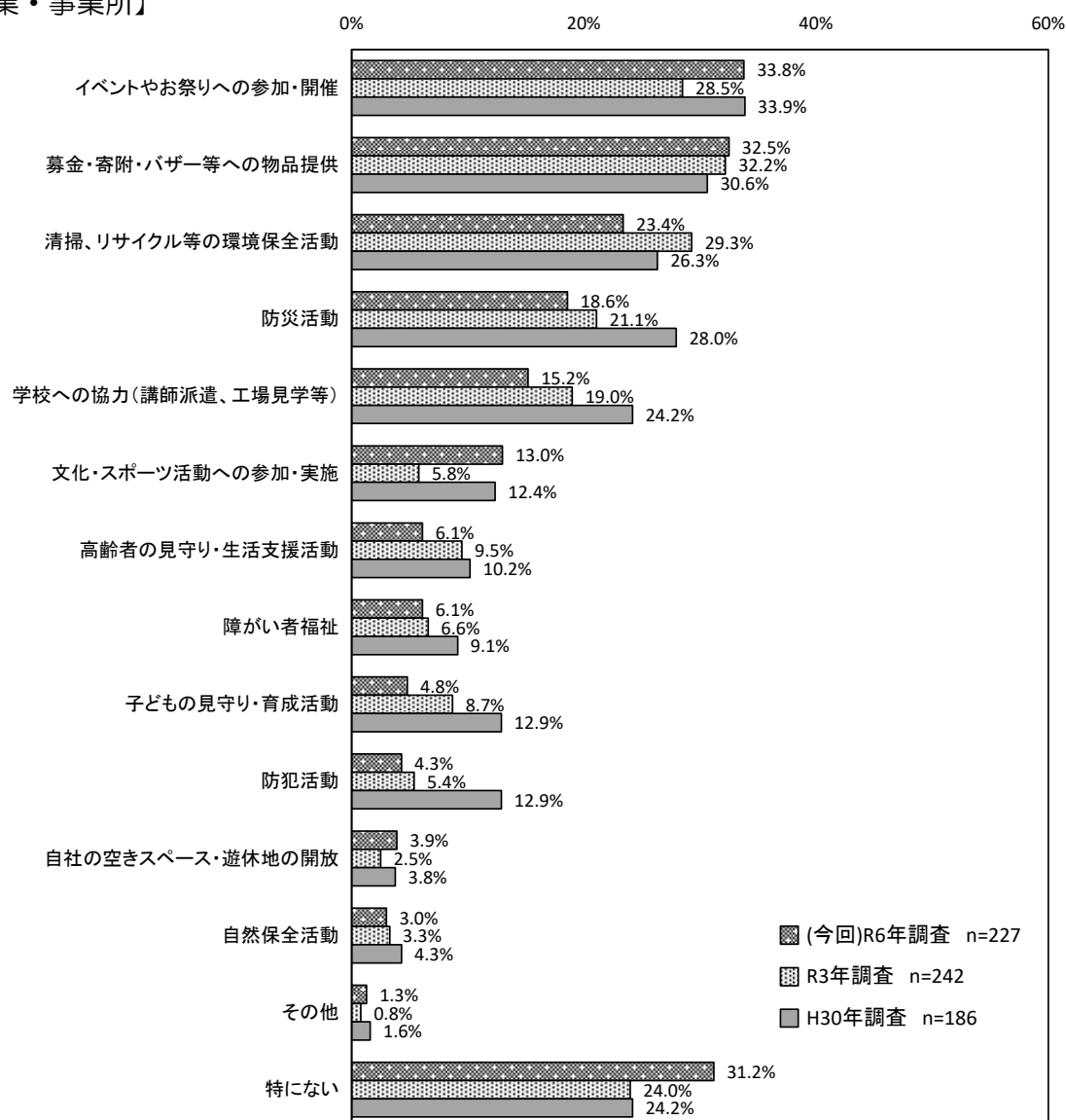


(2)社会貢献活動

- ・「図表-27 社会貢献の観点から、本業とは別に会社や従業員が取り組まれていること」では、「特
にない」が 31.2%であるため、約7割の事業所が社会貢献活動に取り組んでいます。その内容と
しては、「イベントやお祭りへの参加・開催」、「募金・寄附・バザー等への物品提供」、「清掃、リサイ
クル等の環境保全活動」、「防災活動」、「学校への協力」が多くなっています。

図表-27 社会貢献の観点から、本業とは別に会社や従業員が取り組まれていること
(過去調査との比較) -複数回答(該当するものすべて)-

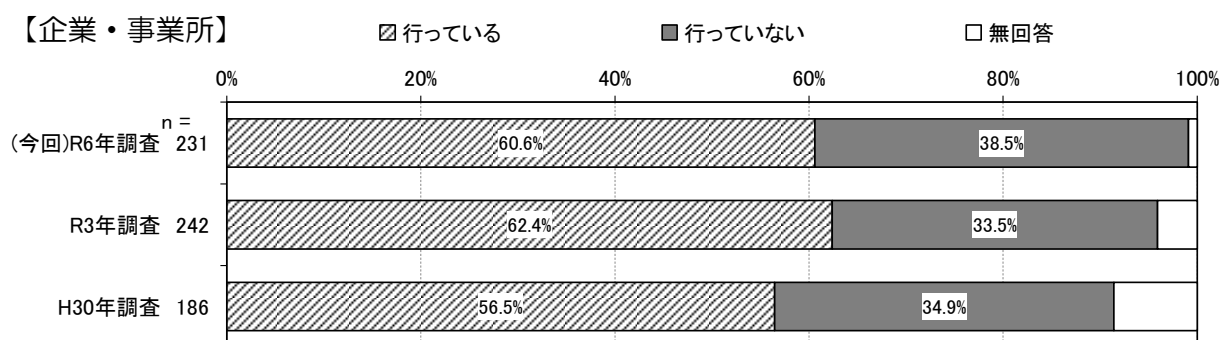
【企業・事業所】



(3)従業員の子育て支援

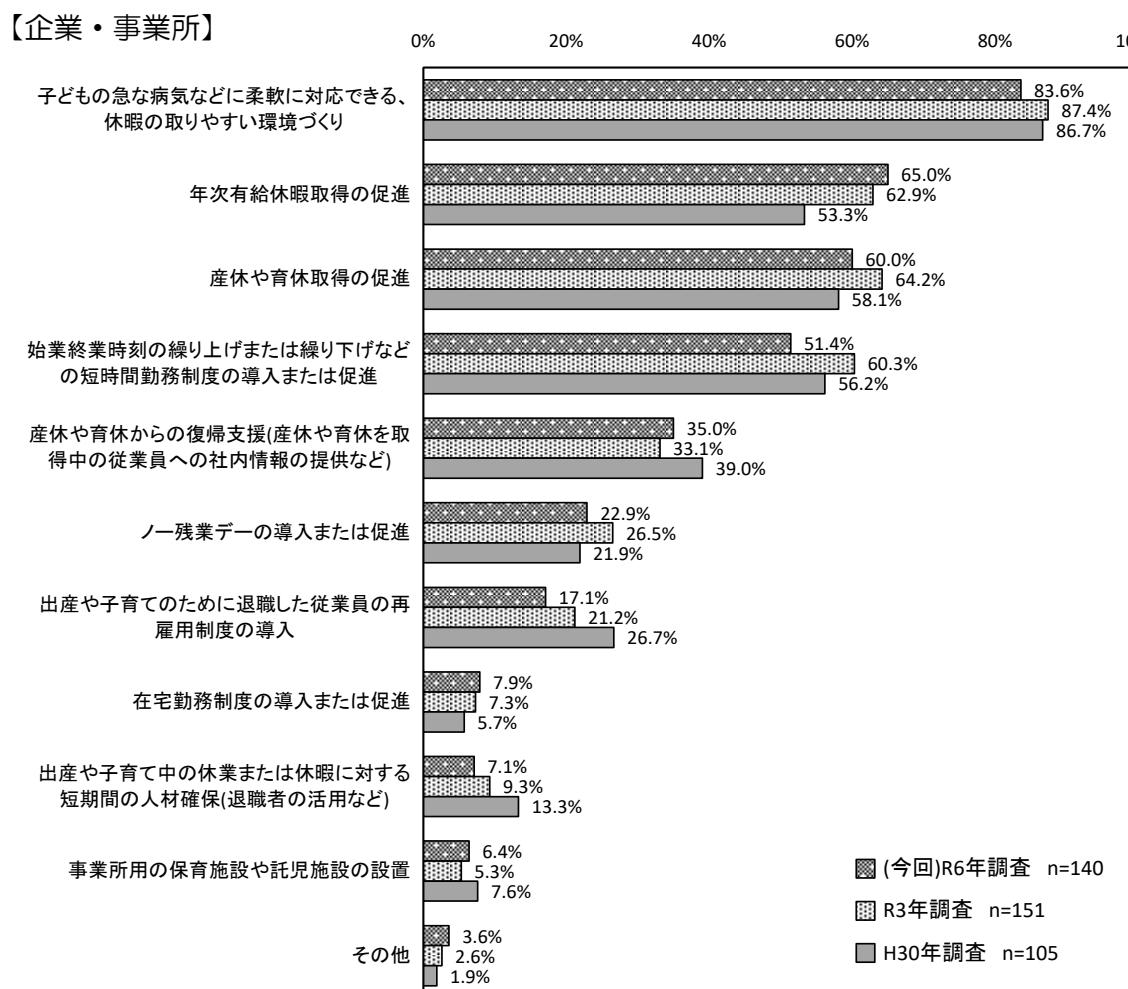
- ・「図表-28 仕事と子育ての両立支援の有無」では、事業所の約6割で、仕事と子育ての両立に向けて支援を「行っている」と回答しています。
- ・「図表-29-1 仕事と子育ての両立のために行っている支援内容」では、「休暇が取りやすい環境づくり」、「年次有給休暇取得の促進」、「産休や育休取得の促進」、「短時間勤務制度の導入または促進」などの支援を実際に行っており、「図表-29-2 仕事と子育ての両立のために、今後も継続して行うことや新たに行いたいこと」としても、同様の取組を行うことを考えている事業所が多くなっています。

図表-28 仕事と子育ての両立支援の有無(過去調査との比較)



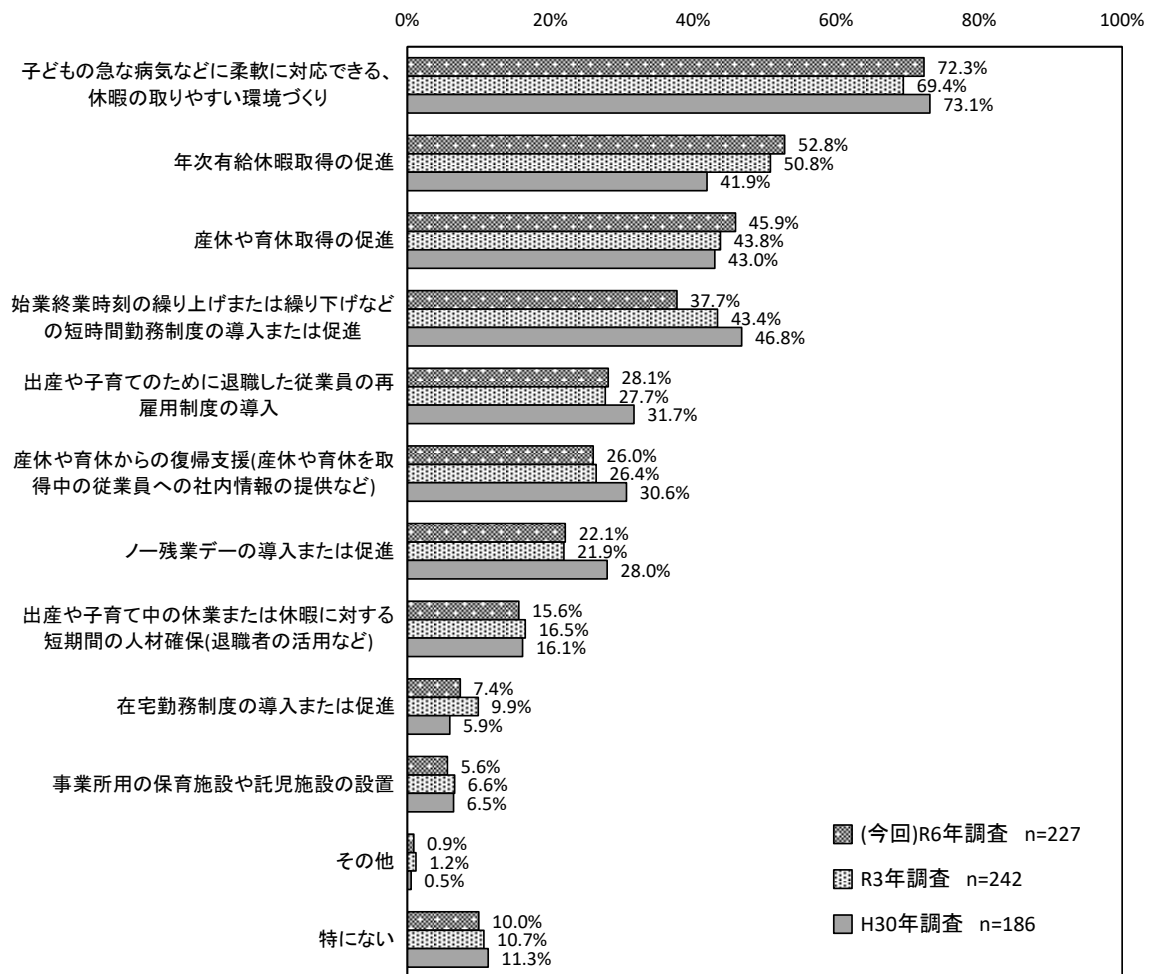
図表-29-1 仕事と子育ての両立のために行っている支援内容(過去調査との比較)

-複数回答(該当するものすべて)-



図表-29-2 仕事と子育ての両立のために、今後も継続して行うことや新たに行いたいこと
(過去調査との比較) -複数回答(該当するものすべて)-

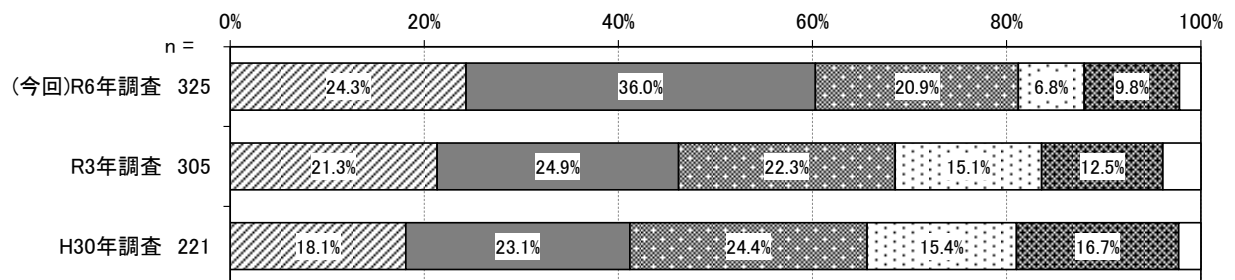
【企業・事業所】



- ・一方、若者・子育て世代へのアンケート調査によると、「**図表-30 子育てをする人にとっての働きやすさ**」では、6割の職場が働きやすい(「そう思う」+「ややそう思う」)と回答し、3割弱が働きやすいとは思わない(「あまりそう思わない」+「まったくそう思わない」)と回答しています。
- ・「**図表-31 働きやすくない原因**」では、「日常的に労働時間が長い」、「一人ひとりの業務量が多い」、「始業・就業時間が固定的である」、「子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない」などをその理由としてあげています。

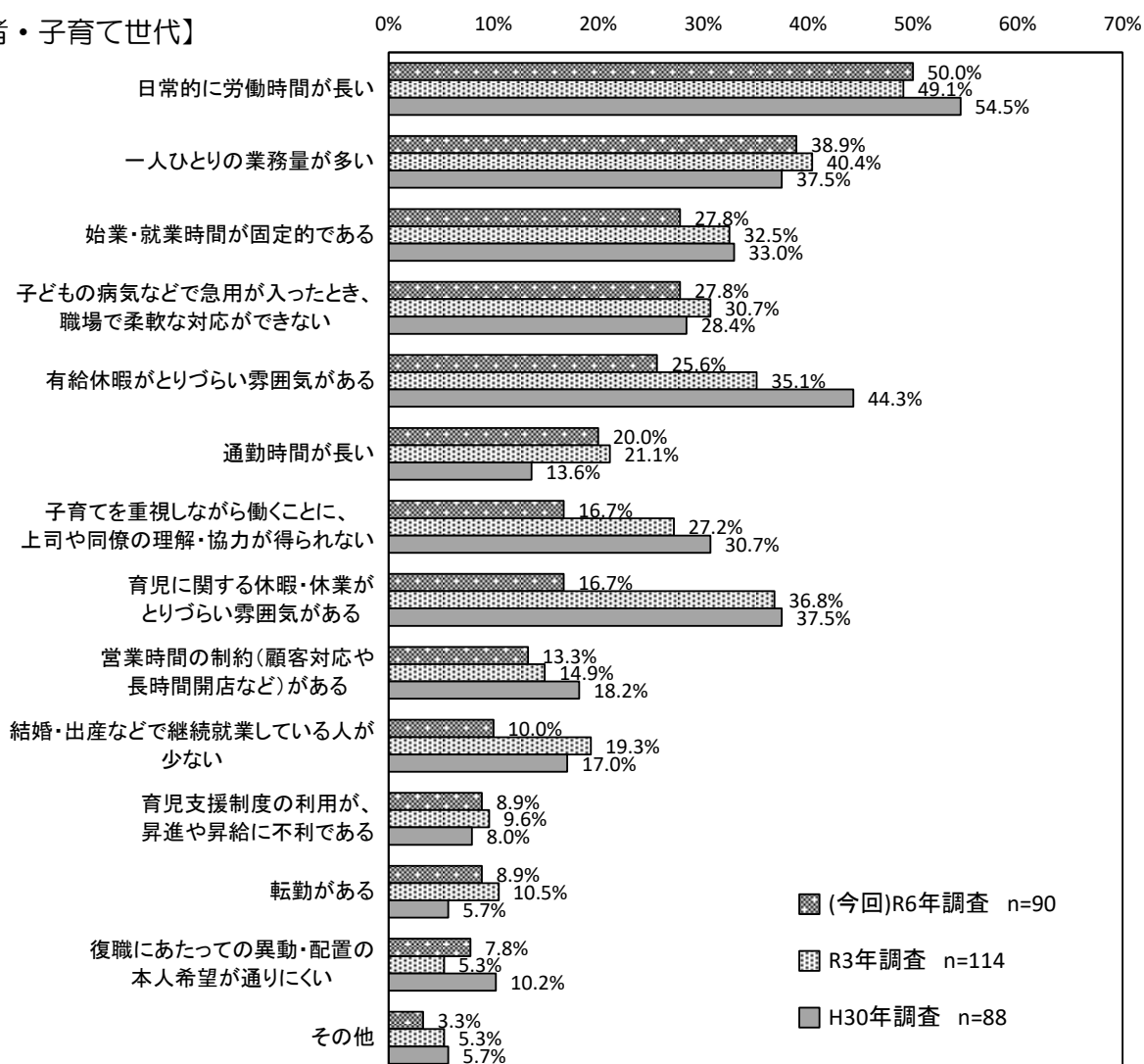
図表-30 子育てをする人にとっての働きやすさ(過去調査との比較)

【若者・子育て世代】 そう思う ややそう思う あまりそう思わない まったくそう思わない わからない 無回答



図表-31 働きやすくない原因(過去調査との比較) -複数回答(該当するものすべて)-

【若者・子育て世代】



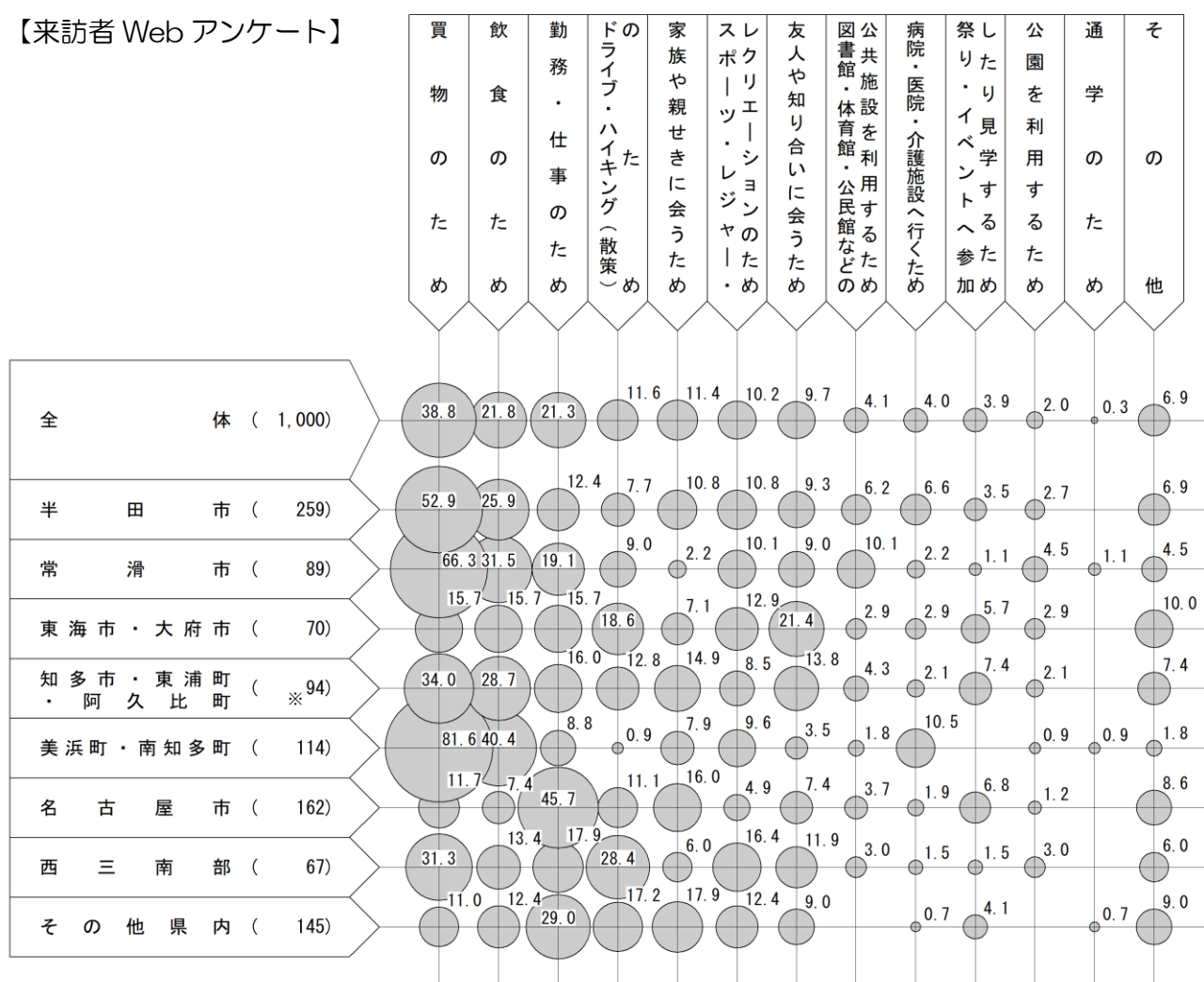
4 ⑤来訪者Webアンケート調査について

(1)武豊町への来訪目的と町のイメージ

- ・来訪者Webアンケート調査によると、「**図表-32 居住地別、武豊町への来訪目的**」では買物、飲食、勤務・仕事での来訪が多くなっています。
- ・「**図表-33 武豊町のイメージ**」では、他市町の住民からみた武豊町に対してプラスイメージを持っている人が45.8%で、令和3年調査より、「大変良いイメージを持っている」が1.5ポイント、「どちらかというとも良いイメージを持っている」が4.5ポイント低下しています。一方、悪いイメージを持っている人は少ないが、「どちらともいえない」と、明確なイメージを持たない人も半数を占めています。

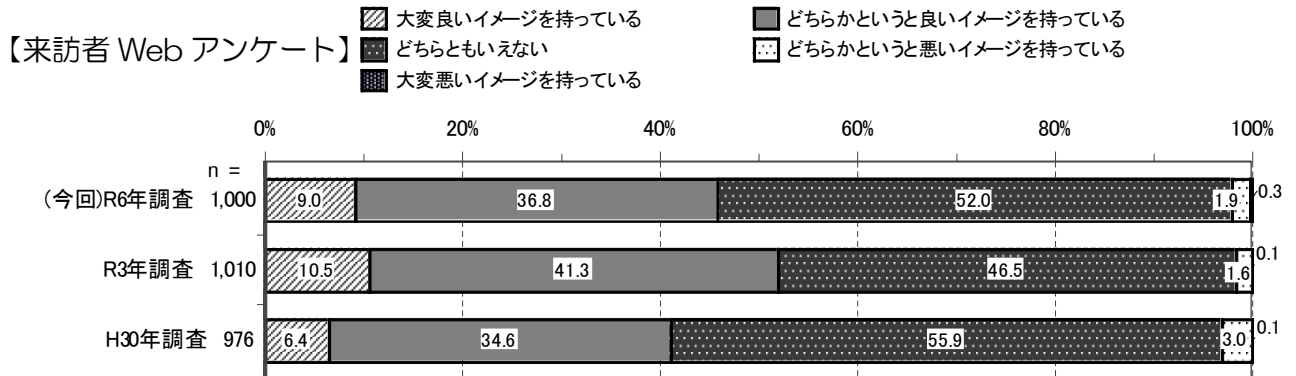
図表-32 居住地別、武豊町への来訪目的 -複数回答(3つまで)-

【来訪者 Web アンケート】



※西三南部:碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市

図表-33 武豊町のイメージ(過去調査との比較)

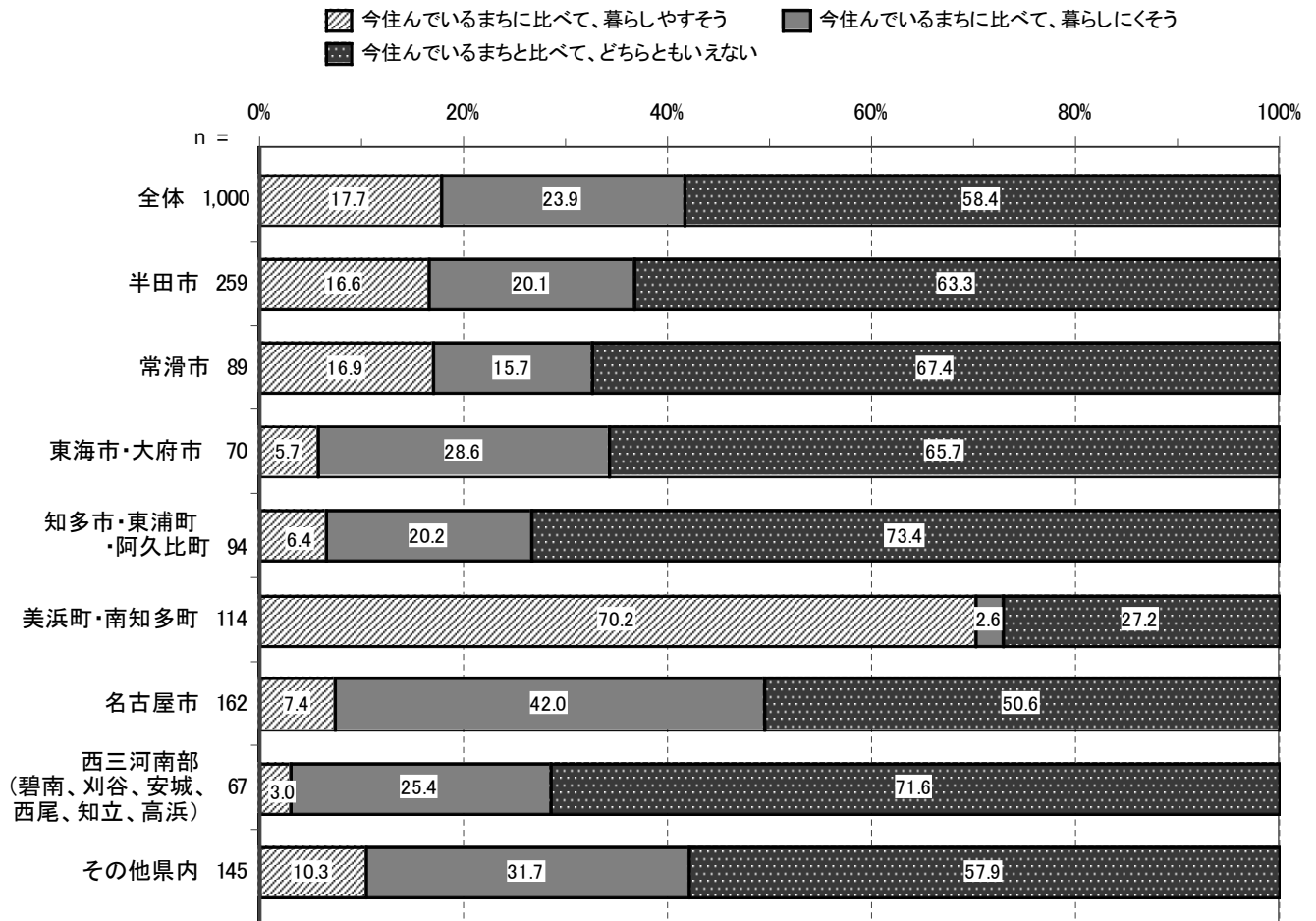


(2)武豊町の暮らしやすさ

・他市町からみた武豊町の暮らしやすさについて、「図表-34 居住地別、武豊町の暮らしやすさ」では、「どちらともいえない」が半数以上を占めるものの、「暮らしやすそう」より「暮らしにくそう」が多くなっています。しかし、美浜町、南知多町についてのみ、「今、住んでいるまちより暮らしやすそう」が多くなっています。

図表-34 居住地別、武豊町の暮らしやすさ

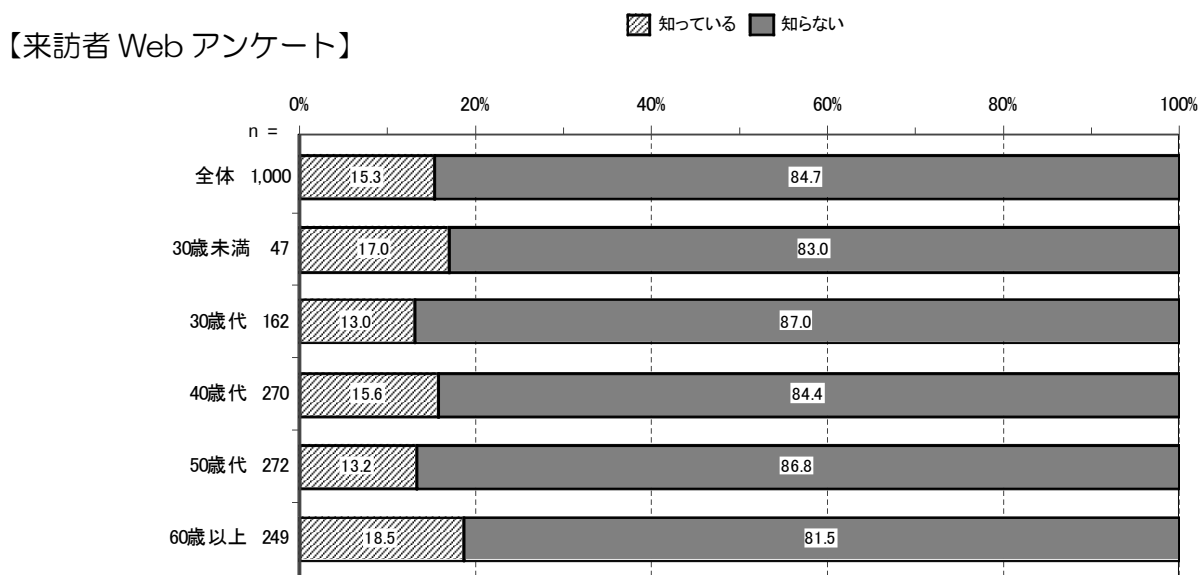
【来訪者 Web アンケート】



(3) 浦島太郎伝説の認知度

- ・「図表-35 年齢別、浦島太郎伝説でギネス世界記録を達成したこと」では知っているが 15.3%、知らないが 84.7%で、あまり知られていない結果となっています。
- ・「図表-36 武豊町に浦島太郎伝説があること」では、ギネス世界記録達成の前から「浦島太郎伝説」があることを知っているが 29.7%、ギネス世界記録達成のニュースで「浦島太郎伝説」があることを知ったが 4.5%、ギネス世界記録達成は知っているが「浦島太郎伝説」のことは知らなかったが 3.3%、「浦島太郎伝説」があることを知らないが 62.5%で、3割程度が武豊町に浦島太郎伝説があること知っており、年代が高くなるにしたがって知っている割合が高くなっています。

図表-35 年齢別、浦島太郎伝説でギネス世界記録を達成したこと



図表-36 年齢別、武豊町に浦島太郎伝説があること

【来訪者 Web アンケート】

